

No. 47 >>> Contents

●提携トピックス	
純国産絹糸を使った帯の生産にあたり	
株式会社龍村美術織物 烏丸工場長 榎垣展康	1
●蚕糸絹トピックス	
地理的表示保護制度に「伊予生糸」が登録されて	
愛媛県農林水産部 農業振興局長 森寛敬	5
二子玉川ライズ「純国産宝絹（takaraginu）展」	
蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会事務局 大石明	8
●海外情報	
中国蚕糸業の現状と日本蚕糸業との提携	
元中国蘇州大学副学長 白倫先生講演録	11
●シルク遺産を訪ねて②⑥	
信州大学繊維学部 of シルク遺産	
東京産業考古学会 副会長 平井東幸	20
●シルク豆辞典	
蚕の季節感（3）	24
東京農工大学農学部蚕学研究室 准教授 横山岳	
●一般財団法人大日本蚕糸会から	
第4回蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクールの出品財を募集します	28
再生マユクリンと中古の回転族を供給します	
碓氷製糸農業協同組合 事業部長 狩野寿作	29
●イベント情報	32
●提携支援センターから	
提携支援センター活動日誌	34
平成27年度第5次分の純国産絹マーク使用許諾状況	35
純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧	37
●蚕糸絹関係博物館一覧	44
●蚕糸絹関係機関ホームページ一覧	46
●統計資料（統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。）	49

純国産絹糸を使った帯の生産にあたり

株式会社龍村美術織物

烏丸工場長 榎垣 展康

はじめに～弊社のあゆみ～

弊社は染織工芸に対する功績により芸術院恩賜賞を受けました初代龍村平蔵^{たつむらへいざう}が、1894（明治 27）年に創業し、1906（明治 39）年に龍村製織所を設立しました。その年、織物組織^{おりもの そしき}の発明により、専売特許 6 件、実用新案 30 件を取得いたしました。その後、正倉院御物を初めとした古代^{しやうそういんぎよぶつ}の裂地^{きれじ}の調査・研究・復元に着手し、日々研鑽^{けんさん}に努めてまいりました。そのような中 1941（昭和 16）年には龍村美術織物研究所が政府より特別許可を受け、全国初の官公庁に準ずる織物技術保存機関となりました。その後、1954（昭和 29）年には、クリスチャン・ディオールに名物裂^{めいぶつぎれ}などによるドレス地を製作・提供し、秋冬コレクション用として発表されました。このように古代裂の調査・研究・復元を通じて、その事業分野は多岐に亘ります。

その間に、1951（昭和 26）年に室内インテリア用裂地を生産する工場を網野^{あみの}（京都府京丹後市）に作り、また、1973（昭和 48）年には緞帳^{どんちやう}を生産するための工場を滋賀県守山市^{もりやま}に作りました。その後、1987（昭和 62）年には車輛シート地部門

に本格参入し、岐阜県関市に工場を作るなど、織の総合メーカーとして歩んでまいりました。

現在、4代龍村平蔵は、それらを受け継ぎ、世界に現存する優れた遺品の研究・復元及びそれを基礎として新しい感覚を盛り込んだ創作の織物を生み出し、今日、世界的に認められる美術織物を製造販売しております。



からすま
烏丸工場の外観

創業の精神

初代平蔵が周囲の人々の反対を押し切って織物の世界に飛び込んだのは、わずか 17 歳の時でした。その後の 10 年あまりの間に、織物に関する専売特許 6 件、実用新案 30 件、発明改良数 10 件を取得しまし

た。これらの新考案の織物を製品にすべく、京都西陣に龍村製織所を設立しましたが、苦心して考案した新規の織物もたちまち同業者間に模倣追随するものが現れ、不正競争が行われるに至り、苦境に立たされました。こうした深刻な経験を得た結果、誰にもまねの出来ない織物を作ることを決心しました。初代平蔵は、織物は経糸と緯糸の組み合わせで出来ていることから、織物は数学であると考えました。織物の組織は割り切れる偶数的なものであり、これに奇数的要素を加えれば、誰もまねのできない織物が出来ると考え、その奇数こそ美の世界であると思い至りました。その美の世界を探究するため、ひたすら美術織物の研究と創作に打ち込みました。初代平蔵はその中から、創造と復元という方向性を進路としました。そのようなことから弊社の社是は「温故知新」であります。

二代、三代とその思いは受け継がれ、現四代平蔵は、色々な古代の裂地を復元研究しながら、織物を平面の造形と見るのではなく、経糸と緯糸で構築される三次元の立体という視点で捉えていくことを考えています。初代平蔵の個展ともいえるべき「織物美術展覧会」に訪れた芥川龍之介は、種々雑多な芸術品の特色を自由自在に捉えている点に感服し、「それらの芸術品の特色を巧みに捉え得たが為に、織物本来の特色がより豊富な調和を得た、殆ど甚深微妙とも形容しがたい、恐るべき芸術的完成があった」と最大限の賛辞を呈しています。芸術的完成という絶賛を得て、初代が提唱した

織物美術という概念が広く受け入れられるようになったといわれていますが、四代は初代の作品に秘められた独創性を冷静に見つめなおし、今まさに現代の和様に新たな領域を切り開こうとしています。



工場内部



製織作業

純国産絹糸への取り組み状況

弊社は和装関係の帯地を中心に各地のお祭り等の山車などを飾る懸装品や劇場などの緞帳、インテリア関係の壁装用裂地・カーテンなどや各種別注裂地、また、列車や飛行機等のシート地までの幅広い織物を生

産しているメーカーです。その中でも特に帯地や懸装品やさまざまな復元裂地、また、和装小物やテーブルセンターに使用される経錦たてにしきと呼ばれる特殊な織物などに絹糸を使用しております。それらの織物に使用する絹糸には、特に細心の注意を払っております。それぞれの裂地の使用用途に合わせた風合いじふう（地風）をいかに作るかという課題に向けて、絶えず研究を重ねております。帯には帯の、経錦には経錦のそれぞれに適した風合いがあります。その地風を作り出せる絹糸を常に探しているというのが現状です。

例えば帯ですが、絹糸の中でも帯に向く絹糸と着物に向く絹糸は少し違いがあります。帯に向く絹糸は、着物に向く絹糸に比べて、絹糸のコシが重要になってきます。着物はドレープ性などの機能が必要となりますが、帯は締めた時にきりっとしまり、ほどけにくいという性質を要求されます。その性質のために、絹糸のコシが必要になってきます。これは、単純に引張強度や弾性率など種々の物理的な数値ではあまり差が出てこないのですが、確実に存在する違いだと考えております。熟練の職人が手で触れば確実にその差がわかるという違いです。具体的には、海外産の絹糸と比べ、国産の絹糸はコシがあり、より帯に向いているということになります。そのような理由から、締め心地を追求した帯づくりには、コシのある国産の絹糸の使用が重要になってきます。

弊社の帯地は本袋帯ほんぶくろおびの技法を使って製織

しております。これは表地と裏地を同時に製織するという織り方ですが、この本袋帯については特に表地と裏地の織り上がったときのバランスが締め心地に影響してきます。表地には柄が乗り、裏地は無地という2つの違うと言ってもよい性質の織物を同時に織っていくわけですから、絹糸の性質がかなり影響してまいります。その部分を追求していくと、コシがあり、柔軟性に富んだ絹糸にたどり着きます。中でも、出来るだけ遅い速度で繰糸された絹糸の方が、コシがあり、柔軟性に富み、帯にするには最適だと考えております。海外の最新鋭の自動繰糸機に比べ、日本人が手を入れて比較的遅い速度で繰糸した国産の絹糸が適していると考えております。

弊社の本袋帯は締め心地の面でも、ありがたいことにお客様の高い評価を得ています。この評価を絶やさないためにも、国産の絹糸のコシと柔軟性にこだわっていきたいと考えています。

2点目としましては、品質の安定性があります。海外糸は繭の取れる地域や製糸工場などによって、品質が不安定になる場合があります。これに比べまして、国産糸は地域も限定されており、製糸工場の技術も海外に比べて優れており、何と言っても品質が安定しています。

弊社の帯は、現在市場では特選品として扱って頂いております。そんな中において、帯の色柄などは別にして、地風に関しては、弊社独自の地風を安定してお客様にお届けしたいと考えています。国産糸にこだわる

過程で、国産糸の中でも野村町（愛媛県
西予市）の絹糸がより低速で繰糸されている
ということを知り、一部の製品で試験的
に使用を試みております。低速で繰糸され
た糸を経糸と緯糸に使うことにより、弊社
の帯がどのような風合いになっていくのか
を試験していき、どのように使用していく
ことが弊社の目指す帯の風合いに最も近く
なるのかを検討し工夫していきたいと考
えております。

3点目には、発色の良さが挙げられます。
弊社の帯地の特徴としまして、深みがあり、
しかも鮮やかな色彩が上げられます。この
色彩を表現するには、絹糸の白度が要求さ
れます。海外糸に比べて、白度の高い日本
糸の使用が必要不可欠です。白度の劣る海
外糸を使用すると、なんともいえず深みが
なく、さえない色になってしまいます。こ
のように、色みの関係からも、国産糸は欠
くことが出来ません。

弊社の本袋帯はありがたいことに多く
のファンによって支えていただいております。
今回純国産絹マークを申請させていただ
きました本袋帯は弊社の中でも高額な部
類に属しており、特に風合い（締め心地）
と色彩にこだわりを持った袋帯に仕上げ
ていきたいと考えております。このような袋
帯を手機でこつこつと織っていくことによ
り、ファンの皆様を裏切らない製品に仕上
げていきたいと考えております。製作する
に当たっては、上述しましたとおり国産糸
の使用は欠くことが出来ないものであり、
今後の生産を考えて行きますと、国内製糸
工場の存続は非常に重要な課題となると思
われます。今後も国内製糸を守っていくこ
とが、弊社の主要製品であります本袋帯地
を守ることに繋がると考えております。ど
うか皆様のご協力をお願いいたします。

■ 榎垣展康（うめがき・のぶやす）のプロフィール
株式会社龍村美術織物烏丸工場長

〒 602-0898

京都市上京区寺之内通烏丸西入上ル相国寺
門前町 650-1

Tel：075-417-4832

Fax：075-431-5120

URL：https://www.tatsumura.co.jp

Shop：http://www.tatsumura.co.jp/shop

Facebook：https://www.facebook.com/
tatsumura.textile

純国産絹マーク表示者登録番号：210

地理的表示保護制度に「伊予生糸」が登録されて

愛媛県農林水産部

農業振興局長 森 寛敬

愛媛県^{せいよ}西予市で生産される「伊予生糸」^{いよいと}は、嵩高^{かさだか}でふんわりとした風合いを有し、織物にすると柔らかさと暖かさがあるうえ、きものでは着崩れしにくく、帯なら締め具合が良いなど、別格の品質として評価が高いことは読者の皆様はよくご存じのことと思う。古くは、昭和 24（1948）年の英国エリザベス女王戴冠式のドレスに使われたり、伊勢神宮式年遷宮^{しきねんせんぐう}の御料生糸^{ごりようし}に継続して採用されたり、能装束の復元などに活用されたりと歴史的価値も非常に高いものである（写真 1）。

一方で、その足元では、風前の灯火の状態になっていた。かつて、昭和初期（1925 年）には県下に 5 万 6,000 戸を超える養蚕

農家があったのが、昭和 63（1988）年には約 1,000 戸となり、平成 24（2012）年には 20 戸を下回るまで激減し、生産者の平均年齢も 75 才を超え、急激に繭生産量が減少してしまっていたのである。

そこで、平成 26（2014）年度春に県が主導して、西予市や同市にある西予市野村シルク博物館、生産者等で構成する「伊予生糸産地再生協議会」を立ち上げ、産地の将来像の検討をはじめるとともに、最も重要な課題である新規養蚕生産者の掘り起こしと、希望者が現れた時にすぐにでも養蚕に取り組めるよう養蚕専用器具・機材の確保、生産拡大に必要な桑苗の増殖等を一体的に進めることとした。



写真 1：伊予生糸と繰糸工の井関さん
写真提供：西予市



写真 2：農林水産省での登録証授与式の様子
〔右 2 人目から、三好市長、伊藤副大臣〕
写真提供：西予市

協議会の場だけでなく、さまざまな場で話を聞いてみると、前述した伊予生糸の品質や評価、更に良い繭にするための養蚕技術、良い生糸にするための繰糸技術については、ほんの一握りの方のみが知り得ているだけで、養蚕から製糸まで一貫的に伊予生糸を語ることができる人がほとんどいない状態であったので、まずは伊予生糸とはこういうものだ、ということを経営者や関係者の間では共有しなければならないと考えた。

また、地元の人たちも、シルク博物館があることは知っていても、そこで非常に品質の高い生糸が生産されていることまではあまり知らず、産地再生のためには地元での機運を高める必要もあると感じられた。

そこで、国が昨年6月から施行した地理的表示保護制度（G I 制度）を活用することにした（写真3）。



写真3：G I マーク 写真提供：農林水産省

G I 制度は、既存の商標と異なり、「名称だけでなく品質についても国がお墨付きを与えて生産者を守り、効果的な情報発信により消費者も本物を選びやすくなる」というものであるが、登録申請書を作成する中で、一つ目の目的が達成された。それは、これまでの伊予生糸の歴史を振り返り、客観的な事実とともに、先達^{せんだつ}の知恵を掘り起こし、地理的特徴や地域文化の成り立ち、養蚕から繰糸までの生産工程を文字に、いわゆる「見える化」したことで、関係者の間でその情報が共有されたのである。

加えて、その過程では、京都から招いた織物業者や染色史家の専門家からご助言をいただき、伊予生糸の生き字引とも言えるシルク博物館長の発する（私にとっては）難解な言葉を解きほぐしながら、県・市の若手職員と一緒に申請書の作成を進めたが、本県のシルク文化の特徴と奥深さも身をもって知ることができた。

果たして、G I 制度の施行日である平成27（2015）年6月1日に申請書を提出した伊予生糸は、平成28（2016）年2月2日にG I の登録を受けた。中四国では初、食品以外の区分では全国初のG I 登録産品ということもあって、県内では多くのマスメディアに取り上げられたことで県民に広く知れ渡ることとなり、二つ目の目的の地元での機運を高めることもできたと感じている。

だが、直近の養蚕農家戸数は11戸、繭生産量は3.5 tにまで落ち込んでおり、伊予生糸の産地再生の道はまだまだ非常に険

しいものである。

そんな中で嬉しい^{うれ}ニュースもあり、この春、愛媛県では約 30 年ぶりとなる新規養蚕者が誕生する予定である。この時のために、伊予生糸に魅せられた有志 30 人が 1 年間かけて養生した桑「しんいちのせ」の苗木 4,000 本を、この生産者が利用する農地に定植することとしている。繭生産を増やしていくためにはまだまだ担い手の確保に努めていかねばならないが、そのための行政の支援体制は整いつつある。

G I 登録に当たってご協力いただいた関係者に感謝するとともに、県内外から、愛媛の養蚕・伊予生糸を継承する者がどんどん現れ、伊予生糸の産地にかつての賑わいが戻ることを願ってやまない。

(参考)

※地理的表示保護制度とは

- 1) 特定農林水産物等の名称の保護に関する法律 (H27.6.1 施行) に基づく登録制度。品質等が地域特性と結びつく伝統性を備えた産品^{おおむ} (概ね 25 年以上) について、国が品質の「お墨付き」を与え、不正な表示使用を取り締まる。
- 2) 国際的に広く認知 (100 カ国以上で保

護) されており、登録標章 (G I マーク) の添付により他の産品と差別化が図られ、国際競争力が向上する。

- 3) 登録申請から 3 カ月の公示期間を経て、内容の審議後に登録 (登録時に登録免許税 9 万円が必要)
- 4) 「但馬牛」、「夕張メロン」、「八女^{やめ}伝統本玉露」等の食品 7 品目が登録 (H27.12.22) され、食品外では「伊予生糸」、「くまもと県産い草」、「くまもと県産い草畳表」の 3 品目が H28.2.2 付けで登録となった。

■森寛敬 (もり・ひろたか) のプロフィール

愛媛県農林水産部農業振興局長

〒 790-8570

愛媛県松山市一番町 4 丁目 4-2

TEL : 089-92-2044

FAX : 089-941-2111

■^{せいよしのみら}西予市野村シルク^{はくぶつかん}博物館の紹介

〒 797-1212

愛媛県西予市野村町 8-177-1

TEL/FAX : 0894-72-3710

二子玉川ライズ「純国産宝絹（takaraginu）展」

蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会事務局

大石 明

純国産宝絹展の概要

本協議会は、平成 27 年 11 月 20 日（金）～ 21 日（土）東京都世田谷区の「iTSCOM STUDIO & HALL 二子玉川ライズ」において「純国産宝絹展」を開催しました。今回は、初めて百貨店以外での展開でしたが非常に好評でした（写真 1）。来場者は幅広い年代層で 1,300 名以上が来場されました。会場の広さは、330 m²（100 坪）程の過去最大規模でした。純国産絹の PR コーナーは、各提携グループの皆様からの純国産絹使用の秀作コーナーを展開しました。また、女子美術大学（東京都杉並区）から全面協力をいただいて試作品を展示しました。同大学の院生・学生の方々により、純国産の絹を素材とし、若い感性と技術を生かした作品を製作されました。



写真 1：iTSCOM STUDIO & HALL 二子玉川ライズの会場外観

展示会の展開内容

1) 純国産絹 PR 展示コーナー

- ・生きた蚕と多様な繭展示
「蚕の一生」のほか関連パネル展示
- ・映像上映：奇跡の糸が出来るまで
- ・シルクカルチャー講演会

講師：井上元蚕業技術研究所前所長

「日本の養蚕の歴史と文化」

講師：新保博蚕業技術研究所所長

「蚕のお話」

講師 清水重人蚕糸科学研究所所長

「絹と人の関わり」

・実演

真綿つむぎ：安部衣純

結城紬地機：北嶋美子

紅花染め：新田克比古

座繰り：蚕糸科学研究所

・参加型ワークショップ

繭クラフト：河合貞子、山本節子
（シルク博物館）

ミニ手機織：片岡志保里
（西陣織会館）

シルクハンカチ染め：新田克比古

組紐ブレスレット：福田隆・福田隆太

一粒繰り（繰糸）：蚕糸科学研究所

2) 女子美術大学作品展

「次世代への純国産絹の継承」をテーマに 11 作品が製作され、来場者による投票で次の方が受賞されました。

最優秀賞：刺繍訪問着、石瀬華子

宝絹賞：刺繍バック「ロマンチック・すずらんカントリー・モザイク個性的・Ice prism」、藤田千鶴



写真 2：女子美術大学展示風景

協議会・富岡市、西陣織工業組合、大門屋、西尾呉服店、龍工房、りょうぜん天蚕の会、丸三ハシモト株式会社、株式会社小倉商店、株式会社丸万中尾、株式会社伊と幸、株式会社西陣まいづる、株式会社甲斐絹座、近江真綿振興会グループ協議会、織匠万勝、奄美島絹推進協議会、有限会社シンセイ



写真 4：提携グループ作品展示風景



写真 3：来場者の注目を集めた女子美大コーナー

3) 蚕糸・絹業提携グループの出品コーナー
次の 18 グループに出品（平成 26 及び 27 年度の試作品を含む。）いただきました（写真 4）。

株式会社マルシバ、富岡シルクブランド

4) パブリックリリース媒体

(1) ポスター、B2 サイズ、400 枚（写真 5）



写真 5：ポスター

(2) パンフレット、A5 サイズ、8 ページ
3,000 部

(3) 協議会ホームページ

平成 27 年 9 月開設。

現在結果報告掲載中

(4) 毎日新聞に告知広告の掲載

・掲載記事（写真 6）

(5) iTSCOM STUDIO & HALL 二子玉川ライズ

・会場壁面ビジョンに宝絹展映像上映

今回は、百貨店以外での初めての会場、女子美術大学とのコラボレーション試作品展示と新しい取り組みを行いました。結果として多くの幅広い年代の方に P R できました。来場アンケートでも生きた蚕、展示品、実演とワークショップなどが好評であり、成功裏に終わることができました。たくさんの方にご協力いただき有難うございました。

平成27年
11月20日(金) 午前10時～午後6時30分 | 11月21日(土) 午前10時～午後5時30分
会場: iTSCOM STUDIO & HALL 二子玉川ライズ 入場無料
東京都目黒区玉川一丁目14番1号(東急目黒線南口駅・東急大井町線「二子玉川」駅下車)

純国産 宝絹展
世界に誇れる街で 世界に誇れる宝絹

日本の宝である純国産絹を見て、聞いて、さわっていただけるイベント
二子玉川で開催!
純国産の繭・糸を使った、様々なワークショップが体験できる!
蚕の飼育から製繭までを日本国内で行う「純国産絹」の重要拡大活動を進めて
いる蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会が「純国産宝絹展」を開催
します。女子美術大学の学生による、若者の新しい感性で捉えられた作品の展示
や、純国産の繭や糸を使ってミサンガや人形を作るワークショップなど、
来場者の五感を刺激するプログラムが盛りだくさんです。

主催/蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会
後援/農林水産省 経済産業省 一般財団法人大日本蚕糸会 協力/女子美術大学
お問い合わせ Tel. 03-5642-6527 www.iakaragimu.com
(蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会事務局) 宝絹 検索

写真 6：毎日新聞ニュースサイトに掲載

中国蚕糸業の現状と日本蚕糸業との提携

【元中国蘇州大学副学長 白倫先生講演録】

平成 27 年 11 月 20 日（金）大日本蚕糸会会議室で中央蚕糸協会主催の「内外シルク研究会」があり、中国シルク協会顧問、元蘇州大学副学長の白倫^{はくりん}氏が「中国蚕糸業の現状と日本蚕糸業との提携」という演題で講演された。以下、その概要を報告する。

白倫氏は信州大学で長く研究活動をされ、その後中国で研究・教育活動に当たられるとともに、日本と中国の蚕糸業の橋渡しの役割を果たされてきた方であり、蚕糸業に関する日中協力のキーパーソンともいうべき方である。

今回、信州大学繊維学部^{ちくまかい}の同窓会「千曲会」の 100 周年記念式典に出席のために来日され、それを機会に本研究会で講演いただくことになったものである。

（本報告については白倫氏の校閲を受けてはいるが、使用日本語については若干の変更を加えており、文責は中央蚕糸協会田中誠にある。）



白倫先生

【はじめに】

白倫と申します。長い間、日本蚕糸業の皆さんに大変お世話になりました。中国の蚕糸業は日本からいろいろ勉強させていただきました。私だけでなく中国蚕糸業の皆さんも日本蚕糸業の皆さんと長らく親しく交流してきましたことに感謝しています。これからもぜひ皆さんと研究交流、相互協力をしていきたいと思っております。

本日、皆さんと直接お話しをする機会を作っていただいたことに本当に感謝しております。十分な話をする自信はありません

が、私が製糸学出身なので自分の専門をめぐっての中国の蚕糸業の現状と日本蚕糸業との提携についてお話しさせていただきたいと思います。

【中国蚕糸業の現状】

中国が市場経済を導入してから蚕糸業の分野の管理は中国シルク協会が当たっておりまして、このシルク協会がそれまでであった輸出入関係の情報報告会を受け継いで、毎年情勢分析研究会を行います。そこでこの1年間の蚕糸・絹業の情勢やこれからの対策について報告し、参加者がディスカッションするのです。今年（2015年）は5月にこの会で楊永元^{ようえいげん}会長が基調報告を行いました。まずその楊永元会長の基調報告を基礎に蚕糸業の状況を紹介させていただきます。

この5年間、中国の蚕糸・絹業は、国全体の経済が発展していく状況の中で、リスクが大きく生産が減少する傾向が強かったというのが実情です。一方で、国の管理部門では蚕糸業の維持・発展のために一生懸命に産業構造の改善や調整、国内市場の拡大等に努めており、その結果、ある程度の安定が図られていると考えられます。

繭生産は、2010年から2014年の間、一時増加しましたが、その後少しずつ減少してきました。この3年間は64万トンの生産は維持しています。しかし、その中身は変わっています。主な繭生産地である江蘇省^{こうそ}は31.7%、浙江省^{せつこう}は20.1%減少しています。それに対して広西チワン族自治

区（以下「広西自治区」と略称する。）は30.4%、雲南省^{うんなん}は42.1%増加し、特に雲南省のこの2～3年間の発展は著しいものがあります。四川省^{しせん}は7%とわずかの増加となりました。

繭価格を見ますと、2014年の繭価格はキロ当たり36元（日本円で600円ぐらい）で、2010年に対しては66.8%ですが、2000年に対しては115.5%上昇しました。繭価格は14年間で倍以上に上昇しました。

生糸生産量は、2014年14.6万トンで、2010年の16.2万トンに比べて9.8%減少しました。

絹織物生産量は、2014年7.2億メートルで、2010年に比べて7.5%減少しています。

中国で一番変化が大きいのは真綿の布団で、大きく生産が増加しました。2010年に対して25%増加し、2014年は2,474万点となり、今なお増加しています。国内生糸消費の中で大きなウエイトを占めるようになっています。

2010年から2014年の乾繭と生糸の価格の変化を見てみます。乾繭は2011年4月にトン当たり13万元（日本円で1kg約2,500円）と最高価格に達しましたが、その後一貫して低下しています。生糸価格は同じく2011年4月にトン当たり40万元（日本円で1kg約7,500円）となっており、そのあとは変動しながら下がっています。2010年末に対する2014年12月の乾繭価格と生糸価格は、それぞれ19.5%低下、8.4%低下でしたが、その後低いレベルな

がら安定しています。

以上に関連しまして関連産業の売り上げと利潤を見てみますと、2014年のシルクの大規模企業の売り上げは1,281億元で、2013年と比べて6.8%増加しています。しかし、増加率は毎年低下する傾向となっています。2014年の一定規模以上の企業の利潤は69.6億元で2013年に比べて4.7%増加しており、これも増加率が毎年低下する傾向です。シルク産業の発展の速度は毎年下がっていく傾向です。

中国経済の発展によって価格が上昇し輸出は4年連続で減少しています。2014年蚕糸・絹関係の輸出は31.4億ドルで、2010年に対して8.3%減りました。その中で生糸は2010年に対して5.3%減りました。絹織物の輸出は、2010年に対して9.6%減りました。衣料等の二次製品は16.2億ドルで2010年に対してわずかですが減少しています。輸出量の変動が大きいのは二次製品であり、生糸と絹織物は少しずつ減少しています。

2010年から2014年の輸出量の推移を見ますと、輸出総量は全面的に減少しています。これを輸出先別に見ますと、アメリカは22.1%減少しました。インドは40.1%と大幅な減少で、イタリアは15.6%減、日本は12.3%減、香港8.6%減で、それぞれ減少していますが、日本は割合に安定している状況が見られます。

この5年間の蚕糸業の動向を簡単にまとめると、内外の変化する環境の中で、成長速度の鈍化や輸出総量の減少は見られるの

ですが、基本的な状態はあまり変化はないと考えられ、蚕糸・絹業の基礎は安定的と考えられます。だいたい繭生産量は64～65万トン、生糸は14万トン、絹織物は7億メートル前後で、売り上げと利潤は少しずつ増加しており、産業の規模は一挙に縮小するのではなく、基本は安定していると考えられます。一部の企業の閉鎖、合併が見られますが、企業の経営状態は安定しています。広西自治区、雲南省などでは大幅に発展しています。江蘇省、浙江省では衰退が見られますが、その分は広西自治区、雲南省によって補われています。

海外市場の需要不足による影響はありますが、国内市場は毎年安定的に拡大しています。これまで中国の生糸やシルク製品の輸出は全生産量の70%以上となっていたが、現在50%に下がって国内販売量と半々になっています。国内の需要増加がある程度輸出の減少を埋め合わせているのです。

国の援助、支援が蚕糸・絹業の生産環境をある程度安定化させています。中国では商業部、発展改革委員会から毎年蚕糸業に対する資金が提供されています。

2015年に入ってから輸出関係のデータを見てみますと、8月までの輸出は生糸類は去年と比べて3.6%減少しています。絹織物は20.3%減少しています。衣料は3.8%減少し、他の二次製品も7.1%減少しました。これは海外市場の需要不振によるものです。

【中国蚕糸業が直面している問題】

次に蚕糸・絹業が直面している情勢について説明させていただきます。

世界経済の回復には時間がかかるようです。中国にとって大事な海外貿易窓口である今年（2015年）5月の広州輸出輸入商品貿易会では紡織衣料製品の売上げは依然として低かったそうです。紡織衣料製品のコストが上がったことによって需要が減少し、また関係企業が東南アジアに移転する傾向が明らかに見られています。東南アジアの紡織労働者の賃金水準は中国より低く、月200～300ドルぐらいで、中国ではそれに対して月500～600ドルになっています。今年は特にロシアのお客が減っています。東南アジアのお客はかなり維持されているのですが、WTO（世界貿易機関）の予測によりますと2015年の世界貿易の増加率は約4%ということで、2008年金融危機前の6%に比べてかなり下回っています。これは世界貿易の低迷状況が継続し、世界的に需要不足の傾向にあることを示しています。世界経済の動向は中国経済に対して大きな影響があります。現在中国の輸出に直接関係する就業人口は約3,000万人だそうですが、間接的なものまで含めると約1億人の就業者が関係しています。輸出が大幅に落ちますと輸出関連産業に大きく影響し、失業問題が起きるおそれがあります。世界経済の低迷が継続することは直接紡織、蚕糸絹製品の消費と販売に大きく影響するのです。

先ほども少し見たのですが2010年から

2014年の間で、アメリカは連続3年間輸出が減少し、インドは4年連続の減少という非常に厳しい状況となっています。

省ごとの2010年の輸出量に対する2014年の輸出量の減少率は、浙江省は9.3%、江蘇省は17.3%、^{かんどん}広東省は12.7%、上海は25.8%、四川省は23.8%とほぼ全面的に減少しています。^{さんとう}（山東省だけは6%の増加を見せています。）

このような状況では国際市場の需要増によって蚕糸業の発展が導かれることは期待できないと思っており、そのために国内需要の増加に努力する必要があると思っております。

国内経済につきましては、今年（2015年）前半のGDP（国内総生産）は29.69兆円で成長率約7%を維持しています。中国の改革開放以来30年、GDPは年平均で9.8%の成長となっています。これは本当に奇跡と言ってもよいかと思いますが、中国経済の成長には問題点があります。過度の工業化、過度の外国投資依存、過度の輸出依存、過度のコスト増、過度のGDP追求、これらの問題を抱えた経済発展だということです。いろいろな問題があっても経済が発展することが大事ですが、一方で資源の急激な減少、低効率でのエネルギー使用、環境水準の悪化といった大きな代償が払われてきました。これらのボトルネック（^{あいろ}隘路）となる制約は絶えず現れており、このままのかたちで経済成長を続けていくとそれらの悪化が社会生活の中でますます感じられ

るようになると考えられます。

経済の高度成長の推進によって発生した資源問題、エネルギー問題、環境問題等がありますが、現時点では経済成長が維持されないと失業率が上昇し、社会安定問題が懸念されることになります。専門家の計算によりますと、GDPの1%の増加は130万人から150万人の雇用につながるそうです。毎年新しく1,000万人分の雇用を生み出し、失業率（農業人口は除く）を4%前後に保つためには7.2%のGDP成長が必要だそうです。そのため、いろいろな問題があることは承知の上で、社会安定のためにはある程度やるべきことはやらねばならないという判断で、GNPの成長を今は大事にしているのです。今年（2015年）の成長率は3月の人民代表大会で決定されたのですが、7.5%です。その目標決定の主な背景は雇用の安定の問題であると思います。大学卒業生は約700万人で史上最高になるため、厳しく複雑な経済環境の中で大学生の就職問題を解決しないと、社会の安定に大きく影響するため、GDPの成長を維持することが重要視されたのです。

今、中国は産業構造の調整、環境問題、科学技術振興などの課題を解決するために巨額の資金を必要としています。これらの問題を解決していくためには経済力が前提となるので、世界経済が低調の時期であっても割合に高い経済発展の目標を定めるわけです。GDPだけを重視しており、いろいろな問題が解決していないと批判があります。しかし、最も大事なのはまずは社会の

安定なのです。

経済発展の目標が高く定められますと蚕糸・絹業は発展の良い機会が得られます。雇用問題が解決されますと賃金も上昇し、国民の購買力も向上し、シルク製品に対する消費需要も自然に増加してきます。

この20年間の中国の発展の道を振り返ってみると、経済発展のすさまじい力を感じます。80年代、90年代と生糸価格はトン当たり24万元を超えられないとされていましたが、今、40万元余となりました。中国が経済発展してきたことの影響です。

消費はおだやかに増加しているのですが、その中で市場の構造が変化しています。従来型の小売市場の売上げが今年前半4.6%増加であるのに対し、ネットワーク市場での販売は約40%増加しました。小売市場の売上げの10%を超え、急激に増加すると見込まれます。私が日本にいた時、宅配便をいつも使わせていただきました。非常に便利で何かあればそこに頼めば済みました。中国でも宅配便のようなネットワーク上での販売事業は生活の中の至るところで見られる風景となりました。

国民消費を刺激する政策と措置が発表されています。特に情報消費や電子商取引が促進されてきました。2014年から第4代の移動通信技術の経営市場導入が許可されました。ネットワークを利用する小売市場はこれからもっと急速に拡大していくと思います。1日当たり国内のネットワーク販売件数が3,000万件以上となりました。

2015 年の北京だけのネットワーク市場の売上は 1 兆元に達すること、また中国全体のネットワーク市場の売上は 12 兆元と予測されました。このような電子商取引の発展は良いのか悪いのか議論されていますが、従来型の中小商店が倒産しつつあるのが事実です。

このような新しい市場構造の変化は蚕糸・絹業にとって有利ですが、蚕糸・絹業自体も市場構造の変化に応じるような改革が必ず必要だと思います。

一方、中国の養蚕の状況を見てみますと、非常に脆弱^{ぜいじやく}な基礎の上にあることがわかります。シルク産業の新しい技術は少ないし、技術導入も遅れ、蚕糸に関する教育と研究の人材が乏しいのが現状です。1950 年代日本で自動繰糸機が開発された時は中国も素早く導入^{むしやく}しまして、1955 年には無錫で、また私のいた大学で日本の自動繰糸機を導入することになりました。その時は本当に早かったのですが、今は新しい技術の導入は非常に遅くなっています。蚕糸教育と研究の人材が乏しいことはとても大きな問題です。

養蚕の基礎が依然として弱いため、蚕糸業は経済発展が継続している沿岸地域から奥地へと移転しています。その例の一つとして蚕糸・絹業の一番発達している浙江省を見てみますと、1992 年の繭生産量は 14.2 万トンでしたが、2014 年になると 5 万トンしかありません。2008 年以降連続して浙江省の繭生産量は減少していま

す。これに対し広西自治区の蚕糸業は発展してきました、浙江省の製糸工場は広西自治区、雲南省へ移転しています。浙江省の工場は広西自治区、雲南省に技術指導したり、直接投資による工場を作ったり、分工場を作ったりしています。

また農家の養蚕生産を見てみますと、1970 年代の繭を収穫する様子とあまり変わりありません。収穫した繭を町へ輸送するのも、船を使うのと車を使う違いなどがありますが、似ているシステムで動いています。繭の販売の風景を現場で見えますと何十年もあまり変わらないのではないかと思います。

今の電子技術、材料科学技術、システム技術などに応じる新しい蚕糸技術の開発と導入が急務ですが、その進展が遅れています。現在国産の自動繰糸機等は新技術の導入と開発によって大変良い性能を持つようになり、蚕糸業の新しい時代への息吹が感じられますが、全体からみれば、蚕糸・絹業は現代産業群の中で非常に競争力の弱い産業です。かつては蘇州市^{そしゅう}の製糸工場、無錫の製糸工場などは非常に人気がある職場だったのですが、今では若い労働者の募集は非常にむずかしくなっています。したがって町では募集できなくて地方に行くというような状況になっております。

蚕糸・絹業の発展を図る上での大きな問題は蚕糸教育、研究、技術の人材が乏しいことです。中国シルク関係の大学として蘇州絲綢工学院^{しちゅう}、浙江絲綢工学院がありまし

た。蘇州絲綢工学院は蘇州大学と合併し、浙江絲綢工学院は浙江理工大学に変更となりました。現在の大学、研究所でシルクの名前の付くものは消えてしまいました。養蚕関係の大学教育は西南農業大学、浙江農業大学、蘇州大学、華南農業大学などがありました。西南農業大学は西南大学となり、浙江農業大学は浙江大学に、蘇州蚕桑専門学校は蘇州大学に合併されました。蚕糸関係の先生はいずれの大学でも蚕糸・絹の研究・教育に頑張っていますが、応募する学生が少なくて困っていました。蘇州大学にはかつて蚕糸学専門がありましたが、13年前志望学生が少ないため中止されました。他の大学では募集はしていますが、第一志望者の応募は少なくなっています。特にこれらの大学の中の製糸や絹織物、染織などの伝統的な工程における先生の後継ぎができないことは、今はっきりしています。シルク関係の研究経費を申請することがかなり困難で、蚕糸・絹関係問題を研究する研究者は少なくなる傾向になっております。大学を卒業して蚕糸・絹関係の企業や研究所に行く人は少なくなっており、特に専門を勉強し訓練された大学生が蚕糸・絹の現場で仕事をすることが少なくなっております。

蚕糸・絹業の発展の制約として労働人口の減少、経済発展に伴うコストの高騰、資源獲得競争、環境問題からの制限などがあり、非常に大きな影響を与えています。蚕糸・絹業は非近代的形態を残存させており、

新しい環境の中でその発展は厳しい状況に置かれています。市場経済が導入されて以降、養蚕農家の生活は繭価格とともに不安定であり、利益はほかの農産品と比べて低く、競争力は弱いのです。何年間に一度、桑を一斉に切って養蚕をやめるということが発生します。90年代以降、農村人口が大規模に都会に移動したことも蚕糸業に大きな影響を与えました。地方で女性と老人しかいないということが今、中国で発生しています。2014年の流動人口は2億5千万人で、毎年正月などお祭りの時だけ都会から田舎に帰るので、ふだんは田舎では老人か女性だけしか養蚕をしていないというのが実情です。

まとめますと、中国蚕糸業の現状は、厳しい国際経済環境の中、国内における他産業との競争も激しく、ことに蚕糸・絹業自体は非近代的形態からの進歩が遅れて、国内経済発展の中で、弱小産業の形態が続いているということになります。経済発展に引っぱられて成長していくことが期待されているのですが、自身の体質の根本的改善が必要だと思っています。

【日本蚕糸業と提携の可能性】

日本と中国のこれからの交流を考えてみますと広く展望が開けていると思います。

中国のテレビ局の報告によりますと、現在の世界の一人当たりシルク消費量の平均は55グラムで、これは世界人口72億人が毎年1着ぐらいのシルクの服を買うこと

に当たります。しかし、中国は、世界の蚕糸生産量の80%を占めているにもかかわらず、シルク消費量は9グラムしかありません。これはハンカチ1枚くらいの消費量です。これに対して日本の消費量は217グラムで、スイスの消費量は70グラムです。これからわかりますように中国国内のシルク市場の発展余地は十分に大きいと考えられます。今まで日本の蚕糸・絹業に蓄積されてきた技術によるシルク産品開発は大いに将来性があると思います。この点において日本の蚕糸・絹業のみなさんと協力していくことは大変望ましいことです。

また急務となっている中国養蚕業の体質改善への協力を期待しています。現在、中国の産業間格差は大きく、養蚕業は農業分野に入り、「貧」というグループに入っている産業で、新しい技術の導入が遅れている産業です。繭販売収入は、これはいいほうだそうです。3ヶ月で8,000元、日本円で15万円ぐらいです。経済が遅れている地域においてはこの額は農家の生計に意味をもつ額ではありますが、他の職業と比べてはやはり非常に低い水準です。この5年間、中国の貧富の格差はますます拡大しています。逆に考えますと中国の養蚕業は大いに発展の余地がある産業と考えられます。

中国のシルク産業に関する行政機関には商務部の市場運行と消費を司さどる繭糸絹協調弁公室があります。市場化されている中国の環境の中で蚕糸・絹業の行政管理は

中国シルク協会によって行われます。行政機関ではないですが、協調管理というような役を中国シルク協会がやっています。商務部などから蚕糸・絹業の発展のため、いろいろな政策や予算の手当てがされ、蚕糸関係企業の技術改良、品質改善、新規用途開発などの援助がされております。これらのこともこれからの発展余地があることをある程度語っているのではないかと思います。これまで日本の蚕糸業の技術者や研究者には広西自治区や雲南省へ指導に行ってくださいました。これからも続けて指導をお願いしたいと思っております。

これまで日本は世界の蚕糸業の最先端を走ってこられ、世界蚕糸業の科学技術の発展に大きな貢献をしてこられました。これからも長年蓄積してきた科学技術を引き続き発展させ、発展途上国の蚕糸業の指導に活用されますよう期待しております。

また、日本からはシルク検査基準のISO（国際標準）化への御支援をいただきました。中国シルク協会は大日本蚕糸会からの御支援、御援助をいただいたおかげで、「絹・生糸の節と糸むらの電子検査方法」のISO化に成功しました。中国シルク標準委員会秘書長周^{しゅうえい}穎さんからのお礼を申し上げたいとの言付けをお伝えさせていただきます。これからも生糸電子検査標準につきまして引き続き努力していくと思いますが、日本蚕糸業のみなさんからの御援助をお願いしたいと思います。

5千年以上の歴史を持っている中国の蚕

糸業は近代以降日本から勉強させていただくところが多く、日本の蚕糸業のみなさんにはたくさんの援助や指導をしていただきました。特にこの2～30年、両国蚕糸・絹業の間の留学生育成、学術交流、技術指導など友好的な交流をしてきました。これから交流をさらに一層発展させていただきますよう心からお願いをして報告を終わらせていただきます。

【その後の質疑応答における主なやりとり】

（^{まぶし}簇とか繰糸機の部品とかの蚕糸専用物品について中国から日本に供給してもらうことは可能かという質問に対して）

90年代以降は多条繰糸機は消えて、2000年以降は国産の自動繰糸機を作りました。自動繰糸機について日本はこれまで中国の先生でした。自動繰糸機を日本に輸出することは聞いていませんが、日本から自動繰糸機の部品の要請がもしあれば、皆さんは喜んで提供すると私は思います。

簇についても同様に思います。ただ、日本が品質に厳しいことを知っているのので、うまく商売できるかどうかについては慎重な見方をもつだろうと思います。

（中国の養蚕農家の1戸当たり繭生産量は相変わらず少ないのではないかと、増やすための努力はどのようになされているかという質問に対して）

個々の農家レベルでは、生産拡大のため投資をし、コスト低下を図り、大規模化するというような動きがあるにしても現時点では少ないことです。しかし一部の地区で

はこのような方向への試みをしています。一方、製糸工場は自工場の生糸生産を維持するため、積極的に養蚕の基地を作り、そこに投資し、技術指導し、研修を行うといった努力をしています。

中国シルク協会では、市場経済の中で養蚕農家がどのようにやっていくべきか、産業の調和的関係をどうやって作るか、産業構造をいかに合理的に構築するか、というようなことについて、調査をしつつ一生懸命に努力をしています。

その際、日本の経験が参考になっていると考えられます。

（日本のきもの需要に相当する伝統的な民族衣装に対する需要の増加は中国では期待できないのかという質問に対して）

チャイナドレスはありますが日本の和服とは事情が違って、もともとそれほど一般的に着用されるものではありませんでした。結婚の時に布団のシルクカバーを準備するということは一般的にありました。また、以前からあった真綿の布団については今、急速に需要が増加しています。

伝統的な民族衣装が衰退したために絹の需要が減少したのではなく、中国では絹需要はもともと少なく、生産が多かったのは輸出向けが多かったからです。

中国経済が発展してきて生活に余裕ができてきて大勢の人々は伝統的な染色、織り方などに魅力を感じる傾向はあるので、今後だんだんに一つの産業として発展していくことはあるのではないかと思います。

信州大学繊維学部シルク遺産

東京産業考古学会

副会長 平井 東 幸

今回は、長野県上田市の信州大学繊維学部で保存活用されている文化財、すなわち、講堂、守衛所、繊維学部資料館、絹糸紡績機械等を紹介したい。開学 100 周年記念事業の一環としても大幅な整備が行われた^{よし}由で、開学当時の建物を初め機械や文献がよく保存されている。今に残る大正・昭和の高等教育施設・文物としていずれも貴重なものである。

表 主要なシルク遺産（建物／機械）

施設の名称	文化財ステータス
講堂	国登録有形文化財、 経産省の近代化産業遺産
守衛所	国登録有形文化財
繊維学部資料館（旧貯蔵庫）	国登録有形文化財
絹糸紡績機械一式	産業考古学会の推薦産業遺産
書庫（旧アイソトープ実験室）	
旧千曲会館	

現役の講堂

まず、構内に入って右手にある講堂は、文部省の^{しがきていたろう}柴垣鼎太郎の設計により、昭和 4（1929）年に完成。洋風木造 2 階建て、平成 10（1998）年に国の登録有形文化財に登録された。なお、講堂は平成 19（2007）年に経産省の近代化産業遺産に認定されている。この建物は旧上田蚕糸専門学校の講堂であり、現在も学位授与式等に使用されている現役の建物。同大学のみならず「蚕都上田」のランドマーク（歴史）的な建造物である。

外観をみると（写真 1）、正面に^{きりづま}切妻破風^{はふ}が 2 段になっていること、時計を頂点にして三角の張り出し窓が 5 個設けられて



写真 1：講堂外観

いることが印象的である。内部をみると、講堂なので広い大きな吹抜けになっており、当時のままの折り上げ格天井やシャンデリアが格式高い。舞台、演台、柱頭、換気口等には、桑・蛾・繭のデザインが繊細に彫刻ないしテラコッタ（素焼きの焼き物）で表現されており、窓も木製の上げ下げ式であるなど全体によく保存されており、上田蚕糸の時代の記憶を今に伝えている。映画やテレビのロケにもよく使用されることがうなずける建物だ。

貴重な守衛所

次に、正門左脇の守衛所である。大正元（1912）年の竣工で、木造平屋建て（写真2）。この門衛詰所は岩手大学農学部や奈良女子大学（ともに国重要文化財）を手本にしていると言われており、大学の守衛所としては珍しい。学校の拡張に伴い移転を繰り返しているが、講堂と同様の意匠で、小振りな建物ながら開学当時の雰囲気は今に伝える洋風建築である。平成25（2013）年に下記の貯繭庫とともに国の登録有形文化財になった。



写真2：守衛所

旧貯繭庫を活用した資料館

さらに、左手奥には、繊維学部資料館がある。これは、明治44（1911）年の開学時に竣工した元の貯繭庫を一部改修したもの。煉瓦造の2階建（写真3）、内部は木造で、開学以来の同学部の歴史を伝える貴重な史料が展示されている。主な展示物としては、蚕糸専門学校当時の教材や歴史文書、図面、図書（江戸時代の養蚕書等）、書や錦絵を含む絵画、蚕・繭・生糸の標本や模型、座繰器械、商標チョップ、織物見本帳等である。木製の蚕種用孵卵器も珍しい（写真4）。なお、ここに展示されているのは、同学で所蔵している史料のほんの一部であり、その多くは繊維学部図書館で管理されている。



写真3：繊維資料館外観
（写真提供：信州大学繊維図書館）

現役の絹糸紡績機械

絹糸紡績機械一式・・・開綿機から撚糸機までのセットが現在も教育・研究用に使用されていることは極めて貴重であり、特筆される。開学当時の大正2



写真4：繊維資料館内の蚕種用孵卵器

(1913)年に10台購入したもので、英国リーズ市の世界最大の絹糸紡績機械メーカー Greenwood&Batley 社製である(写真5)。ただし、円形梳綿機えんけいそめんきのみ大阪の石井製鐵所製。現在、一式で、しかも動態で保存されているのは、国内ではこの信州大繊維学部だけの由であり、G & B 社から機械の買い戻しの申し出があるほど貴重な由。



写真5：絹糸紡績工程の開綿機
(写真提供：信州大学繊維図書館)

平成21(2009)年に産業考古学会の推薦産業遺産に認定された。国内の絹糸紡績業者は現在、愛知県と滋賀県に数社あるだ



写真6：ガラ紡績機

けで、しかも家内工業である。この実習用に使われている機械一式は日本機械学会の機械遺産に認定されてしかるべきものである。

なお、このほかに、ガラ紡績機ぼうせきき(写真6)がある。古い機械を大学のスタッフが修復して学生の実習用に使用している。周知のようにガラ紡績機はわが国の発明になる紡績機械であり、その機構は単純ながらユニークである。

このほかに、構内には、書庫(旧アイソトープ実験室、昭和5(1930)年完成、鉄筋コンクリート造)、旧千曲会館ちくま(昭和10(1935)年完成、木造2階建、同窓会館)等の貴重な建造物が保存されている。

構内のシルク関係施設を見学しての感想であるが、各施設の前には詳しい説明のパネルが設置されており、繊維学部資料館では、主要な展示物に関する説明チラシが用意されている。さらに、小冊子『信州大学繊維学部アーカイブ』(26p、平成27(2015))

年、繊維学部図書館、ネットでも見ることも可能※）も便利である。さすが国立大学であるだけに、これら多数の貴重なシルク関連文化財が教育研究に活用され、しかも大切に保存活用されて、一般公開されていることに大いに感銘を受けた。

※信州大学繊維学部デジタルアーカイブ：
<http://fiber.shinshu-u.ac.jp/tex-da>

※信州大学繊維学部アーカイブ（冊子）：
<http://fiber.shinshu-u.ac.jp/tex-da/img/archive.pdf>

今回の取材では、同大学繊維学部の森川英明教授、岩木邦男特任准教授をはじめ、多くの方にお世話になりました。学内を懇切丁寧にご案内頂き、また、写真と貴重な資料のご提供をいただきましたことをここに記して謝意と致します。

■名 称：信州大学繊維学部

■所在地：〒386-8567

長野県上田市常田^{ときだ}3-15-1

■アクセス：JR・上田駅下車、徒歩20分、バスあり

■問合せ先：

繊維学部資料館等の見学は繊維学部・総務グループ庶務に事前に問い合わせください。

■電話：0268-21-5300

〔No.46号 2016.1号の記事訂正のお願い〕

次の記事に誤りがありましたので、訂正します。

○P.28の5行目、「写真のキャプション」

正：写真提供：諏訪湖ホテル

誤：写真提供：諏訪市美術館

蚕の季節感 (3)

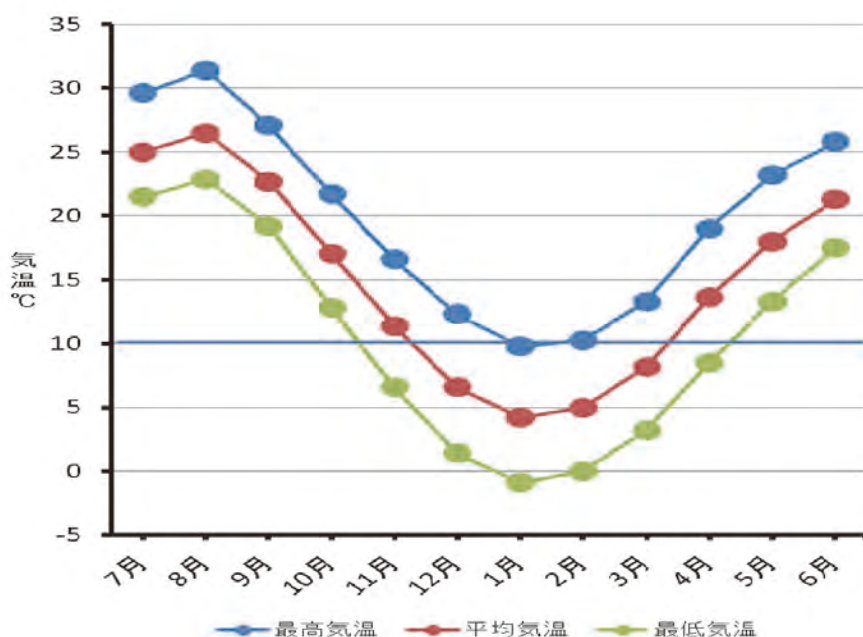
東京農工大学農学部蚕学研究室

准教授 横山 岳

「蚕は冬の間何をしていますのですか？」と時々尋ねられる。蚕は卵で冬の間を過ごしている。冬になると多くの昆虫は野外から姿を消したように感じる。本当は、昆虫は野外に沢山いるのだが、動かないので目につかないだけである。昆虫の体温は気温と同じなので温度が下がれば体温が下がる。「気温」＝「体温」の動物は変温動物と呼ばれる（一方、私たちの体温は36℃位で一定であり、体温がいつも一定の動物は恒温動物と呼ばれる）。昆虫はだいたい

10℃以下になると体温が下がりすぎて動くことが出来なくなる。蚕も昆虫の一種なので寒いと動けなくなってしまう。図1は筆者の職場のある東京都府中市の近年の気温を示している。

だいたい平均気温（赤線）を見ると11月から3月まで10℃以下である。昆虫はこの5ヶ月間ほとんど動けない。1月、2月の最高気温（青線）は10℃位なのでこの2ヶ月間はそれこそ動くことができない。筆者は昨年室温で10月末から暖房を



東京都府中市の気温
注：1980（昭和 55）－ 2010（平成 12）年の平均値



図2：霜が降りた桑
注：開葉した桑葉が萎れてしまう。



図3：霜が降りた桑畑

入れず、ほぼ外気温で蚕を飼ってみた。暖房をいれて25℃にすれば1ヶ月弱で繭を作るが、暖房を入れないと温度が低く、なかなか桑葉を食べてくれず、営繭^{えいけん}しないで年を越してしまう蚕があった。例年府中では11月中旬に強い霜が降りて桑葉が落葉してしまう（とはいえ、近年暖冬で霜が遅い）（図2、3）。落葉した後、再び葉が出て来るのは翌春の4月中旬である。約4ヶ月以上桑葉が桑畑にはない（図4）。

普通は、冬に蚕の幼虫がいたら寒くて育



図4：冬の桑畑

たないし、餌（桑葉）が無い。蚕は冬の間幼虫でいることが出来ないわけである。成虫（蛾）は餌を食べないので25℃だと1週間位で死んでしまう。10℃以下に置いておくと1～2ヶ月位長生きするが、冬を越すほどの長生きできない。繭（蛹）は餌を食べずにじっとしているので長生きしそうだが、体の中では「蛾」の体を作っている最中であり活発に活動している。冷蔵すると蛾と同じく1～2ヶ月位生きるが、冬は越せない。また長く冷蔵されていると体の中で作っている最中の卵が駄目になってしまう。蚕は卵で越冬している。この時、「休眠」という状態で発育を止めている。哺乳類の熊やリスなどは冬になって活動を低下させて冬眠するが、条件が良くなればすぐ冬眠から覚めてしまう。哺乳類は冬眠したくて冬眠しているわけではないからだ。それに比べて昆虫の休眠は冬が来る前から積極的に活動を停止しており、全く違う。

日本の蚕は1年に1世代だけのものと2、3世代と繰り返すものがあるが、どちらも卵で越冬している。通常、蚕は冷暖房完備の蚕室で飼育されている。^{おおしきとしかず}黄色俊一東京農工大学名誉教授は退職後約10年間、多摩の自宅で蚕を外気温下で飼育され、蚕が環境にどのように適応しているか観察されている。図5は黄色名誉教授の飼育データを元にした蚕の一年を示したものである。

1年に1世代の蚕は、春に孵化し、6月頃に蛾になって卵を産む。まだ外には桑の葉が青々と茂り、孵化しても餌に困らないのに、その卵は早々に発育を停止してそのまま翌春まで卵の状態ですごす。2、3世代の蚕も夏や秋に産んだ卵はすぐに発育を停止して冬を越す。冬が来る前に積極的に発育を停止している。蚕は一年のほとんどを卵の状態ですべて過ごしているようなものであり、実に羨ましい、……。ちなみに、蚕と同じ仲間のチョウ目のオオムラサキは幼虫で、モンシロチョウは蛹で休眠しており、同じチョウ目でさえ停止（休眠）する状態は違っている。

昆虫は卵、幼虫、蛹、成虫のどの段階で休眠しても、冬の寒さに耐えられるように体が対応している。細胞が凍ると死んでしまうが、水分が凍らないように体液中にグリセロールやソルビトールという糖アルコールを溜めて凍らないようにしている。「糖アルコール」とは聞きなれないかもしれないが、実は身近でも使われている。糖アルコールは凍り難いので車のラジエターの不凍液（エチレングリコール）として使われている。また、ソルビトールやキシリトールなどの糖アルコールはカロリーが低いが甘いので甘味料として使われている。お菓子や菓子パンなどの原材料名を見てみるとソルビトールの名前を見ることができる。

休眠する昆虫の中に糖アルコールが溜まっていることを発見したのは茅野春雄先生^{ちの はるお}で、半世紀以上前、先生は休眠した昆虫の中はどうなっているのか興味を持たれ、休眠している蚕の卵をすり潰して抽出した物を舐めてみたら甘かった！ので糖アルコールに気が付かれたそうである（1960(昭和35)）。現在、抽出物を舐めさせるなんて学

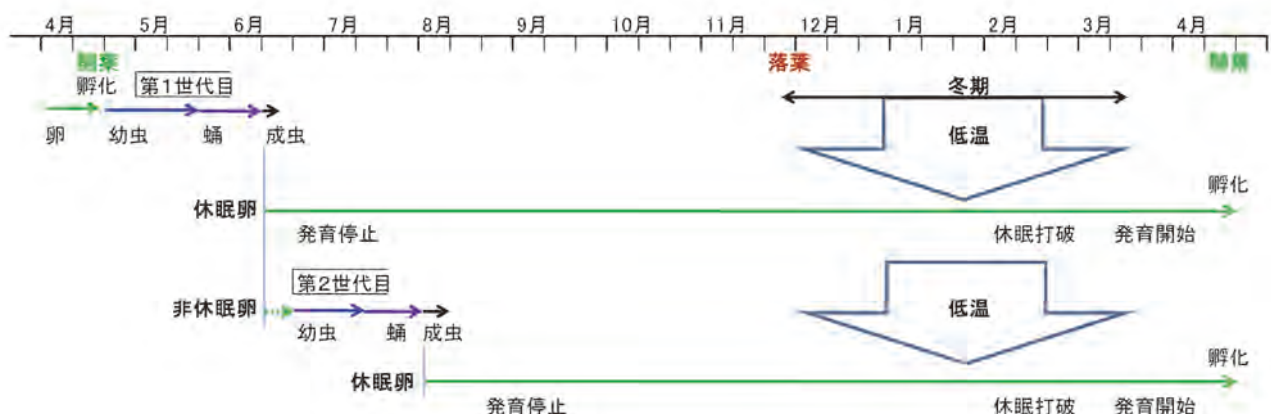


図5：蚕の一生（蚕を外気温で飼った場合）

生に指導はできないが、、、。

糖アルコールは休眠中には卵に溜まっているが、その前後は無い。休眠する前は多糖（グリコーゲン）が溜まっており、これが休眠する時に糖アルコールに変換される。そして冬の寒さ（5℃で2ヶ月位）にふれると卵の中で“samui”（さむい）という遺伝子が発現して休眠が破れ、糖アルコールは再びグリコーゲンに変換されていく。そしてグリコーゲンは発育する時のエネルギー源として使われていく。

自分で産卵させた蚕卵を暖かい部屋に置きっぱなしにしている「孵化しないのは何故？」とよく尋ねられる。蚕の休眠した卵は寒さに晒^{さら}されないと休眠が破れず、ずっと発育を停止したままである。卵を寒い所に置くと可哀相だと思いがちだが、発育停止した休眠卵は寒さにふれないと正常な発育に向かうことができない。蚕の卵は冬が来る前から寒さに備え、冬の寒さを堪能^{たんのう}（？）して春に備えているわけである。蚕の休眠卵にとって寒さは必要なものであ

る。休眠した卵を孵化させようと思ったら屋外の日陰で冬を越させるか、または冷蔵庫で2ヶ月位冷蔵（人工越冬）することが必要である。寒さに晒された蚕卵は春になれば孵化してくるし、冷蔵庫から出せば孵化してくる。以前、冷蔵庫に蚕卵を冷蔵しておくと休眠が破れることを一般の方にアドバイスしたところ、昆虫の卵を冷蔵庫に入れるのは抵抗があるとのこと。冷蔵庫の中で孵化しないことが分かっているても生理的に無理とか。冷蔵庫に魚や鶏の卵を入れるのは大丈夫なのに虫の卵は駄目なんですね。

■横山 岳（よこやま・たけし）のプロフィール
東京農工大学農学部

生物生産学科蚕学研究室

〒183-8509：東京都府中市幸町 3-5-8

TEL：042-367-5681

E-mail：ty.kaiko@cc.tuat.ac.jp

HP：http://www.tuat.ac.jp/~kaiko

〔No.46 号 2016.1 号の記事訂正のお願い〕

次の記事に誤りがありましたので、訂正します。

○表紙の 25 行目、目次の 25 行目及び P.44 の「タイトル」

正：蚕の遺伝 ―外山亀太郎先生―

誤：繭の大きさと繭糸の長さ ―外山亀太郎先生―

第4回蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクールの 出品財を募集します

蚕糸絹産業や絹文化の維持継承とその活性化を図るため、高度な養蚕技術や経営手法を駆使して純国産絹製品の生産販売活動に携わっている蚕糸・絹業提携グループ、養蚕農家又は農家団体を表彰し、その活動と成果を広く紹介して蚕糸絹業の発展に資することとして、下記のとおり第4回蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクールを実施いたします。積極的な参加をお願いします。

記

1 開催の目的

蚕糸絹産業や絹文化の維持継承とその活性化を図るため、高度な養蚕技術や経営手法を駆使して純国産絹製品の生産販売活動に携わっている蚕糸・絹業提携グループ、養蚕農家又は農家団体を表彰し、その活動と成果を広く紹介して蚕糸絹業の発展に資する。

2 応募方法・応募先

応募は、出品財として蚕糸・絹業提携グループ、養蚕農家又は農家団体の何れかを選択し、蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクール事務局に直接郵送か、各県蚕糸主務課又は各県蚕糸絹文化活性化推進事業事務局を通じて応募をお願いします。

3 応募期間 平成28年3月末日まで

4 審査・表彰日 平成28年4月中・下旬、5月中旬

5 表彰内容 農林水産大臣賞1点、農林水産省生産局長賞1点、 一般財団法人大日本蚕糸会会頭賞3点

6 審査員 黄色俊一氏（審査長：東京農工大学名誉教授）ほか4名の審査員

7 主催者 一般財団法人大日本蚕糸会、中央蚕糸協会

8 このコンクールは、平成28年度（第55回）農林水産祭に参加します。

（問合せ先） 〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-9-4 蚕糸会館6F
一般財団法人大日本蚕糸会
蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクール事務局
担当：廣瀬隆登、鈴木浩
電話：03-3214-3411（代）、03-3214-5777（直）
E-mail:suzuki@silk.or.jp

再生マユクリンと中古の回転族を供給します

ー平成 27 年度中古養蚕資材のリサイクル供給支援事業の取り組みー

碓氷製糸農業協同組合

事業部長 狩野寿作

1 これまでの取り組み

近年、蚕糸業の規模が急激に縮小したため、養蚕資材メーカーの廃業が相次ぎ、自動収繭毛羽取り機（マユクリン）、条桑飼育台、回転族などカイコの飼育になくてもならない養蚕資材が供給出来ない状況となっている。

この事態打開のため、一般財団法人大日本蚕糸会から業務委託を受けた「養蚕資材供給組合」が平成 25 年度に「中古養蚕資材のリサイクル供給支援事業」に取り組み、完全整備済みマユクリン（再生マユクリン）27 台、大森式・北沢式自動収繭毛羽取り機用ゴムベルト 70 枚の供給体制を構築した。

平成 25 年度事業の成果としては、①再生マユクリン 27 台は完売。②有限会社東亜エンジニアリングの協力により、平成 26 年以降 15 戸の養蚕農家のマユクリンを修理。③更には、中休止養蚕農家の調査により各種の養蚕専用資材が眠っていることが判明した。

2 平成 27 年度の取り組み

（1）事業計画

平成 27 年度となり、①新たに養蚕参入を計画している企業や青年が出てきたこと。②再生マユクリンは引き続き要望があること。③愛媛蚕種株式会社が扱っていた回転族の在庫が無くなったことなどから、本年度の中古養蚕資材リサイクル供給支援事業については次のとおり実施することとした。

○事業実施主体……養蚕農家の状況を熟知していることから碓氷製糸農業協同組合が事業を受託。

○マユクリンの整備……遊休マユクリンを 30 台回収し 18 台を再生・販売する。

○回転族の回収……回転族 1,500 組を回収・販売する。

（2）マユクリンの回収状況と整備

マユクリン 30 台と回転族 1,500 組を回収すべく、平成 27 年 10 月群馬県の養蚕担当者会議において事業説明を行うとともに、11 月には中休止養蚕農家向けパンフレットの作成・配布を行った（図 1）。

農家の皆さまへ

使っていない「自動収繭毛羽取機（マユクリン）」はありませんか！

新たに養蚕を始める方は、自動収繭毛羽取機や回転簇がなくて困っています。

提供いただいた「自動収繭毛羽取機（マユクリン）」は修理し、希望する方に供給し、優良繭の生産に役立てます。お持ちの方は、JA 等にご連絡下さい。

優良繭の確保を図るため、養蚕に取り組む人を支援していますが、養蚕用機械が不足しています。

使っていない自動収繭毛羽取機がありましたら是非、ご協力をお願いします

なお、収集する自動収繭毛羽取機（マユクリン）は、30 台を予定しており、保存状況を判断して、若干の買取金をお支払いすることとしております。



【問合せ先】 各 JA 東亜エンジニアリング（☎0279-23-9063） 碓氷製糸農協（☎027-393-1101）
（一財）大日本蚕糸会（☎03-3214-3500）

図1：マユクリンの回収チラシ

碓氷製糸農業協同組合は、マユクリンの再生を（有）東亜エンジニアリングに業務委託している。今後、マユクリンの回収があまり見込めないことから、18 台の再生計画を 22 台に変更した。計画変更にあたっては、平成 25 年度事業で余った部品を有効活用している。マユクリンの整備の内容は、①分解掃除、②傷^{いた}んでいる部品の交換、③毛ブラシ 3 本のうち 2 本を新品に交換などで、平成 28 年 2 月中には再生マユクリン 22 台が完成する。

（3）回転簇の回収状況

回転簇^{わく}の枠^{わく}については、金属製のワク、

木製のワクがあるが、止め金が欠けていたり、プラスチック製の止め金が劣化している物については回収の対象外とした。

ボール簇^{まぶし}についても、折れている簇、汚れのひどい簇、経年劣化の著しい簇は回収の対象外とした。

回転簇の回収については、農協の養蚕担当者と共に農家を訪問し、一点一点チェックして程度の良い回転簇を回収した。7 戸の農家から 300 組を回収した。多くの農家から回転簇の回収希望が寄せられたが、予想以上に保管場所が必要なこと、回収した回転簇の販売が見通せないことなどから、目標の 1 / 5 で回収を中断した（図 2）。

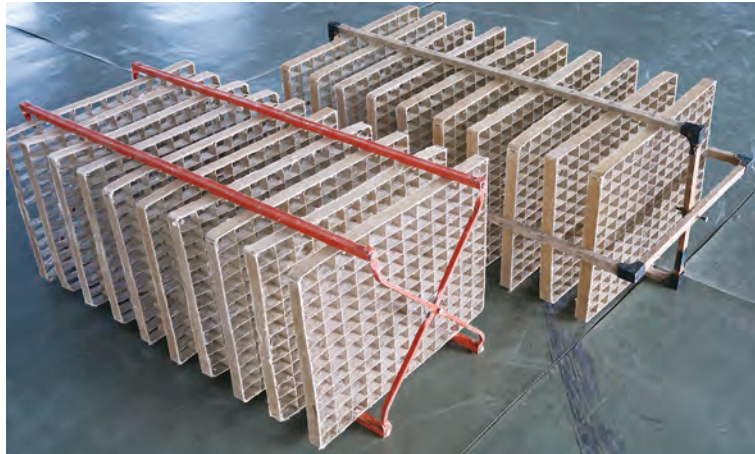


図2：回転族；金ワク（左）、木ワク（右）

（４）再生マユクリンと中古回転族の供給について

ア マユクリン

再生マユクリンについては、平成 28 年 2 月上旬までに 22 台を整備し、3 月以降供給すべく準備を進めている。再生マユクリンの価格については、約 6 万円を予定（販売者倉庫渡しの場合）。

■購入希望者およびマユクリンの修理希望者は、下記までご連絡をお願いします。

販売者：（有）東亜エンジニアリング

電話：0279-23-9063

E-mail：sitoaeng@pastel.ocn.ne.jp

イ 回転族

中古回転族については本年 3 月以降供給すべく準備を進めている。

在庫量を超えた注文があった場合には、蚕糸会と相談し、注文を受けてから回収を実施したいと考えているので、日程に余裕を持って注文をお願いします。回転族の価格については、一組（ワク 1 本、ボール族 10 枚）1,000 円を予定（販売者倉庫渡し

の場合）。

■購入希望者は、下記までご連絡をお願いします。

販売者：碓氷製糸農業協同組合

電話：027-393-1101

E-mail：usui@xp.wind.jp

ウ ゴムベルト

平成 25 年に製作した大森式や北沢式の自動収繭毛羽取り機用ゴムベルトについても在庫があります。

■購入希望者は、下記までご連絡をお願いします。

販売者：愛媛蚕種（株）

電話：0894-36-1028

E-mail:okaiko3@mist.ocn.ne.jp

最後に、碓氷製糸農業協同組合は、優良繭の増産を推進するため、中古養蚕資材の安定供給体制を構築したいと思いますので、養蚕農家を始め、関係者のご支援ご協力をお願いします。

イベント情報

イベント名	企画・展示内容	開催日（期間）	場所・主催者等
純国産絹製品の紹介	（絹小沢） 小紋師の藍田正雄氏の作品をはじめ小物と群馬県産繭生糸を使用したきものの表地と裏地の展示。	<会期> 平成 28 年 3 月 1 日 （火）～3 月 30 日 （水）	<主催> ジャパンシルクセンター <会場> ジャパンシルクセンター 10：00～18：00
純国産絹製品の紹介	（甲斐絹座） 山梨県産繭を使用した甲斐絹のネクタイ、スカーフ、ストール、傘、座布団などを展示。	<会期> 平成 28 年 4 月 4 日 （月）～4 月 27 日 （水）	土、日、祝は、休館。 〒100-0006 東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 1 階
純国産絹製品の紹介	（田中種） 群馬県産繭・生糸を使用した江戸小紋の着物と帯、ニット製品（おやすみ靴下・手袋、下着）などの展示。	<会期> 平成 28 年 5 月 9 日 （月）～5 月 27 日 （金）	TEL：03-3215-1212 FAX：03-3214-1700
第 72 回特別展「まゆクラフトと絹の作品展」	繭の特性を活かしたまゆクラフト作品（一般公募）と伝統技術を駆使した工芸作家の創作品及び友の会会員のバラエティーに富んだ染織作品を一挙公開します。繭、絹の持つ素晴らしさを感じてください。	<会期> 平成 28 年 2 月 27 日（土）～4 月 11 日（月）	<主催> 群馬県立日本絹の里 <お問合せ> 日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町 888-1 TEL：027-360-6300 休館日：毎週火曜日
蚕織錦絵が伝える養蚕・製糸～かいこやしなひ草～	蚕織錦絵は、当時の人々に絹の製法を広く知らせるとともに、現代の私達へ遥か昔の養蚕・製糸の様子を伝えてくれます。 蚕織錦絵と養蚕秘録などに描かれた養蚕・製糸の用具類を展示します。	<期間> 平成 28 年 2 月 4 日 （木）～4 月 11 日 （月）	<場所> 岡谷蚕糸博物館 〒394-0021 長野県岡谷市郷田 1-4-8 TEL：0266-23-3489 休館日：毎週水曜日・祝日の翌日（12/29～1/3）

イベント名	企画・展示内容	開催日（期間）	場所・主催者等
ミニ展示 つまみかんざし	江戸時代から続くこの髪飾りは日本人の自然を愛する美意識から生まれ、四季折々の草花や生き物、季節行事などを題材として、きもの姿の女性の髪を美しく飾ります。 「つまみかんざし」のミニ展示は、かんざしの工芸美の鑑賞と理解を深めていただきます。	平成 28 年 3 月 5 日 （土）～21 日（月・祝）	＜主催＞ シルク博物館 〒231-0023 横浜市中区山下町 1 番地 シルクセンター2 階 TEL：045-641-0841 ＜お問合せ＞ 同上 ＜開館時間＞ 午前 9 時 30 分～午後 5 時まで （入館は 4 時 30 分まで） ＜休館日＞ 月曜日（祝日の場合は翌日）、
内外シルク研究会	講演 （１）「我が経営と純国産絹製品（仮題）」 田中種（株）社長 田中隆氏 （２）「ブラジルの養蚕・製糸の現状」 蚕糸科学研究所研究アドバイザー 木下晴夫氏	＜日時＞ 平成 28 年 3 月 9 日 （水）13：30～16：30 ＜場所＞ 蚕糸会館 6 階第 1 会議室	＜主催＞ 内外シルク研究会 〒100-0006 東京都千代田区有楽町 1-9-4 中央蚕糸協会内 TEL03-3214-5777 ＜お問合せ＞ 同上
2016 まゆクラフト 作品展	まゆの自然な造形美・質感を活かした独創性のあるまゆクラフト作品の展示と常設展示	＜会期＞ 平成 28 年 4 月 14 日（木）～5 月 17 日（火）	＜主催＞ 駒ヶ根シルクミュージアム 〒399-4321 長野県駒ヶ根市東伊那 482 TEL0265-82-8381 ＜お問合せ＞ 同上 ＜開館時間＞ 9：00～17：00 ＜休館日＞ 毎週水曜日

提携支援センター活動日誌

No. 47 (H28.1.1 ~ H28.2.29)

年月日	活 動 内 容 等
28.1.13	蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会（幹事会・監事会） （東京都有楽町 蚕糸会館）
28.1.21	純国産絹マーク審査委員会（平成27年度第5次） （東京都有楽町 蚕糸会館）
28.1.28	平成27年度福島県養蚕振興セミナーへの出席（福島県）
28.1.28 ~ 28.2.2	純国産宝絹 takaraginu 展 in 藤崎百貨店の開催（宮城県）
28.2.8 ~ 28.2.12	純国産宝絹試作品展（東京都有楽町 蚕糸会館）
28.2.29	J A おやま養蚕研修会への出席（栃木県）

平成 27 年度第 5 次分の純国産絹マーク使用許諾状況

純国産絹マークの平成 27 年度第 5 次審査会を平成 28 年 1 月 21 日（木）に開催しました。今回は、5 者から申請があり、使用許諾されている者の 2 者が製品の追加 5 品目、数量の追加 16 品目の申請がありました。これらの申請を審査委員会で審査した結果、5 者 21 品目に対し、1 月 28 日（金）付けで純国産絹マークを使用許諾する旨通知しました。

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(製品の追加) (株) 三越伊勢丹 代表者名：大西洋 (担当者：岩元智之) 〒160-8011 東京都新宿区新宿 3-14-1 TEL：03-3352-1111 表示者登録番号 187	(製品の追加) ジャケット地	48 点	制作企画 HIRAKAWA PLANNING 蚕品種 太平×長安 繭生産 安齊孝行（福島県） 製 糸 (株) 宮坂製糸所 染 色 佐米染色（有） 製 織 鈴吉織物（有）
(数量の追加) (株) JS 代表者名：柏木秀基 (担当者：柏木秀基) 〒403-0004 山梨県富士吉田市大明見 308 TEL：0120-2236-39 表示者登録番号 159	(数量の追加) スカーフ (数量の追加) ストール (数量の追加) シャツ (数量の追加) スカート地 (数量の追加) コート地 (製品の追加) ワンピース地 (製品の追加) ネックカバー (製品の追加) アームカバー (製品の追加) レッグカバー (数量の追加) 布団 (数量の追加) 布団カバー	12,500 枚 200 枚 60 枚 20 枚 10 枚 50 枚 400 枚 400 枚 200 枚 30 枚 80 枚	制作企画 (株) 山桜 繭生産 山梨県内養蚕農家 製 糸 松澤製糸所 製 織 (有) カシワギ 縫 製 高野縫製所
(数量の追加) (株) 高島屋 代表者名：木本茂 (担当者：武田陽子) 〒542-8510 大阪市中央区難波 5-1-5 TEL：06-6631-1101 表示者登録番号 030	後染反物（振袖）	10 枚	繭生産 JA 那須南管内養蚕農家 製 糸 松岡（株） 製 織 (株) 竹林 染色加工 (株) 千總

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)	
(数量の追加) (株) 千總 代表者名：仲田保司 (担当者：俵武司) 〒604-8166 京都市中京区御倉町 80 TEL：075-211-2531 表示者登録番号 001	後染反物 (振袖)	70 枚	繭生産 製 糸 製 織 染 色	宮城県内養蚕農家 松岡 (株) (株) 竹林 自社
	後染反物 (訪問 着・付下)	70 枚	繭生産 製 糸 製 織 染 色	福島・群馬県内養蚕農家 松岡 (株) 田勇機業 (株) 自社
	後染反物 (七五三)	70 枚	繭生産 製 糸 製 織 染 色	山形・福島県内養蚕農家 松岡 (株) 美雲織物 (株) 自社
	後染反物 (七五三)	20 枚	繭生産 養蚕農家 製 糸 製 織 染 色	山形・福島・宮城県内 松岡 (株) 美雲織物 (株) 自社
	後染反物 (振袖)	13 反	繭生産 製 糸 製 織 染 色	福島・岩手県内養蚕農家 松岡 (株) (株) 松浦絹織 自社
(数量の追加) 田中種 (株) 代表者名：田中隆 (担当者：田中隆) 〒541-0054 大阪市中央区南本町 2-1-14 タイヨウマークビル 3 階 TEL：06-6261-2091 表示者登録番号 060	後染反物 (変一越・小紋)	30 反	繭生産 製 糸 製 織 染 色	JA につたみどり管内養蚕農家 碓氷製糸農協 南久ちりめん (株) 高田勝 (株)
	ニット (手袋)	300 双	繭生産 製 糸 撚 糸 製編・縫製	JA につたみどり管内養蚕農家 碓氷製糸農協 昭和撚糸工業 (株) (株) 今川
	ニット (靴下)	300 足	繭生産 製 糸 撚 糸 製編・縫製	JA につたみどり管内養蚕農家 碓氷製糸農協 昭和撚糸工業 (株) タビオ (株)

提携支援センターから

純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧

平成 28 年 1 月 21 日 (H27- 第 5 次) 現在

表示者登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
001	(株) 千總	京都市中京区	後染反物 (振袖、訪問着、付下、色無地、色留袖、黒留袖、喪服)、胴裏
002	(株) 織匠田歌	京都市上京区	先染反物、後染帯地
004	(株) 丸上	東京都中央区	後染反物 (色無地、小紋、付下、黒紋付)、後染帯地
005	(株) 坂本屋	茨城県土浦市	後染反物 (色無地)、胴裏 (灰汁浸け加工)
006	(有) 平原	福島県白河市	後染反物 (色無地、黒紋付)
007	(株) 信盛堂	東京都清瀬市	後染反物 (色無地、黒紋付)
008	(株) きものアイ	新潟県十日町市	後染反物 (色無地)
009	(株) 上庵	岩手県北上市	後染反物 (色無地、黒紋付)
010	(有) 樹 (いづき)	秋田県横手市	後染反物 (色無地、黒紋付)
011	(株) 銀座もとじ	東京都中央区	後染反物 (作家作品)、後染帯地、先染反物 (大島紬、結城紬、御召、作家作品)、先染帯地 (織九寸帯、織角帯、作家作品)、白生地、和装小物 (帯締、羽織紐)、八掛、胴裏
012	河瀬満織物 (株)	京都市上京区	先染帯地
013	(有) 織匠小平	京都市北区	先染帯地
015	(株) 結華	静岡県清水町	後染反物 (色無地、黒紋付)
016	(株) 絹回廊	東京都中央区	後染反物 (色無地)
017	(有) 琴路屋	岩手県釜石市	後染反物 (色無地、黒紋付)
018	(有) 大善屋呉服店	福島県会津若松市	後染反物 (色無地、黒紋付)、後染帯地、白生地 (表地)
019	丸善本店	福島県いわき市	後染反物 (色無地、黒紋付)、白生地 (表地)
020	呉服のささき	山形県天童市	後染反物 (色無地、黒紋付)
021	日本蚕糸絹業開発協同組合 (絹小沢 (株))	群馬県高崎市	裏地 (胴裏 (ぐんま羽二重、ぐんまレピア、ぐんま 200、灰汁浸加工、トルマリン加工)、八掛、比翼地)、長襦袢地、後染反物 (作家作品、紋付地)、白生地 (世紀二一、上州絹星・ぐんま 200、新小石丸)、後染帯地 ((冬物・夏物): うるし糸が 5% を超えるもの)、寝衣 (うぶ着、おくるみ)、和装小物 (袱紗)
022	宮階織物 (株)	京都市上京区	先染反物、後染反物
023	21 世紀の絹を考える会	京都府城陽市	後染反物 (色無地、訪問着)、先染帯地 (袋帯 (草木染、唐織))
024	碓氷製糸農業協同組合	群馬県安中市	白生地、マフラー
025	丸幸織物 (有)	京都府京丹後市	白生地
026	織匠万勝	京都市中京区	先染帯地 (袋帯、名古屋帯)、先染反物 (御召類)、後染反物 (色無地)、先染帯地 (袋帯: 金銀糸が 5% を超えるもの)

表示者登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
027	(有) 織道楽塩野屋	京都府亀岡市	洋装品（マフラー、シャツ、ニット（ウォーマー、腹巻、手袋、靴下））
028	(株) 丸万中尾	滋賀県長浜市	後染反物（江戸小紋、小紋、付下、友禅、色無地）、後染帯地、白生地（表地）
029	(株) むらかね	青森県八戸市	後染反物（色無地、黒紋付）
030	(株) 高島屋	大阪市中央区	後染反物（振袖、七五三着物、色無地、訪問着、黒留袖）、白生地（長襦袢地、胴裏）、ニット（靴下）、風呂敷
031	(株) さが美	横浜市港南区	後染反物（黒紋付（冬用・夏用）、色無地）
032	(有) まるけい	静岡県富士市	後染反物（色無地、黒紋付）
033	(有) 特選呉服専門店後藤	青森県むつ市	後染反物（色無地、黒紋付）
034	(株) 小いいけ	山形県鶴岡市	後染反物（色無地、黒紋付、小紋）
035	(株) 伊と幸	京都市中京区	後染反物（色無地）、白生地（表地、胴裏、帯地）、婦人用ブラックフォーマル地、長襦袢
036	(株) 四季のきものおおにし	東京都杉並区	後染反物（色無地、黒紋付）、後染帯地、白生地（表地）
037	(株) 和幸	埼玉県久喜市	後染反物（色無地、黒紋付）
038	(株) 榎屋高尾	京都市北区	先染帯地（袋帯）
039	(株) つるや	埼玉県川越市	後染反物（色無地、黒紋付）、白生地（表地）
040	(株) 越後屋	千葉県市川市	後染反物（色無地、黒紋付）
041	(株) 小倉商店	茨城県結城市	先染反物（結城紬）、先染帯地（結城紬）、白生地（結城紬）
042	染織家柳崇	東京都世田谷区	先染反物、先染帯地
043	染織家児玉京子	沖縄県竹富町	先染反物
044	草木染工房山村 山村多栄子	東京都八王子市	先染反物、先染帯地、先染服地、ストール
045	手織りよおん 長嶺亨子	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地、ストール
046	祝嶺染織研究所	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地
047	(株) 龍工房	東京都中央区	帯締
048	からん工房 深石美穂	沖縄県石垣市	先染反物（紋組、緋）、先染帯地
049	たわた工房	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
050	山音 (株)	京都市中京区	後染反物（色無地（変三越、駒組））
051	やまと (株)	京都市下京区	後染反物
053	桜井 (株)	京都市北区	先染帯地
054	有栖川織物 (有)	京都市上京区	先染帯地
055	太田和 (株)	京都市中京区	先染反物（結城紬）、先染帯地（結城紬）
056	(株) 岩田	京都市中京区	先染帯地
057	(有) 神原呉服店	千葉県銚子市	後染反物（色無地、黒紋付）
058	浅山織物 (株)	京都市北区	先染帯地
059	(株) やまと	東京都渋谷区	先染帯地、先染帯地（金銀糸が5%を超えるもの）

表示者登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
060	田中種 (株)	大阪市中央区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、黒紋付、加賀友禅、色無地、すかし織着尺)、後染帯地 (九寸名古屋帯)、ニット (靴下、ネック&ボディ、ショルダー、アーム、タンクトップ、腹巻、手袋、ピロケース、肌襦袢)、真綿布団
061	(株) 京扇	東京都中央区	後染反物 (色無地)、胴裏 (パールトーン加工)
062	(株) なごみや	横浜市都筑区	後染反物 (色無地、黒紋付)
063	丸池藤井 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地)、八掛
064	久保商事 (株)	京都市中京区	和装小物 (帯揚げ、半衿)
065	加賀グンゼ (株)	石川県小松市	胴裏
066	千切屋 (株)	京都市中京区	後染反物 (訪問着、付下)、後染帯地
067	荒川 (株)	京都市下京区	和装小物 (帯締、帯揚げ)
068	第一衣料 (株)	東京都中央区	後染反物 (色無地)
069	(株) 紅輪	川崎市宮前区	後染反物 (色無地)
070	装いの道 (株)	東京都千代田区	白生地 (帯地、表地)、胴裏 (トルマリン加工、灰汁浸加工、ぐんま 200、新小石丸)
071	(株) 高橋屋	岩手県一関市	胴裏 (灰汁浸加工)
072	おお又 (株)	大阪市旭区	胴裏 (灰汁浸加工)、ニット (靴下)
073	(株) 天野屋呉服店	栃木県小山市	胴裏 (ぐんま 200 (灰汁浸加工))、白生地 (表地)
074	(株) きもの潮見	愛媛県西条市	胴裏 (パールトーン加工)
075	(株) とみひろ	山形県山形市	胴裏 (酵素精練)
076	(株) 細安	福井県福井市	胴裏 (酵素精練)
077	京和きもの (株)	神奈川県厚木市	胴裏 (酵素精練)
078	(株) まるため	長野県長野市	胴裏 (トルマリン加工、パーリー加工)
079	(株) 小川屋	群馬県前橋市	胴裏 (トルマリン加工、灰汁浸加工)
080	(株) エムラ	山口県防府市	胴裏 (酵素精練)
081	(株) 荒井呉服店	東京都八王子市	胴裏 (酵素精練)
082	(株) 牛島屋	富山県富山市	胴裏 (酵素精練)、後染反物 (小紋)
083	(株) 谷呉服店	福岡県筑紫野市	胴裏 (酵素精練)
084	(株) 登美屋	岩手県北上市	胴裏 (パールトーン加工)
085	(株) 川平屋	愛知県豊田市	胴裏 (パールトーン加工)、後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
086	丸専第一衣料 (株) (丸専きもの)	新潟県長岡市	胴裏 (パールトーン加工)
087	(株) 大丸松坂屋百貨店	東京都江東区	裏地 (胴裏、比翼地 (振袖用))、長襦袢地
088	西陣織工業組合	京都市上京区	マフラー、セーター、カーディガン、ショール
089	(株) あきやま	宮崎県綾町	先染反物、洋装品 (ショール、マフラー)
090	藤井絞 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地)
092	(有) 結城屋	兵庫県洲本市	白生地 (表地)
093	(株) ウメショウ	岐阜県瑞穂市	白生地 (表地)

表示者登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
095	(有) カシワギ	山梨県富士吉田市	寝具寝装品（冬用・夏用・合用薄絹ふとん、ブランケット）、洋装品（スーツ地、ネクタイ、服飾品（スカーフ、ストール、シャツ））
096	(株) 北尾織物匠	京都市上京区	先染帯地（袋帯、名古屋帯）
097	(株) 平田組紐	東京都豊島区	帯締、帯締（金銀糸が5%を超えるもの）、羽織紐（男物、女物）
098	(株) 菱健	京都市中京区	後染反物（色無地）
099	西野 (株)	京都市上京区	帯締、帯締（金銀糸が5%を超えるもの）
100	京商 (株)	鳥取県米子市	後染反物（色無地、黒紋付）
101	(株) 猪井	新潟県長岡市	後染反物（色無地）、後染帯地
102	(株) たちばな	新潟県新発田市	後染反物（色無地）、後染帯地
103	(株) 丸富美	新潟県十日町市	後染反物（色無地）
104	(株) 絹もの屋まつなが	新潟県三条市	後染反物（色無地）
105	(株) 山正山崎	愛知県豊橋市	後染反物（色無地、小紋（変一越、紋意匠））
106	(有) こくぶん呉服店	福島県福島市	後染反物（色無地）
107	(株) 染織近藤	岡山市北区	後染反物（色無地、小紋（変一越、紋意匠））
108	(株) 宮川呉服店	北海道湧別町	後染反物（色無地、付下）
109	(株) 和らいふ	札幌市中央区	後染反物（色無地）
110	(有) きものいなもと	大阪市天王寺区	後染反物（色無地）
111	(株) 世きね	東京都中央区	後染反物
112	(株) 西陣まいづる	京都市上京区	先染帯地（袋帯（金銀糸が5%を超えるもの）、九寸帯（金銀糸が5%を超えるもの）、絹九寸帯（金銀糸が5%を超えるもの））
113	奥順 (株)	茨城県結城市	先染反物（結城紬）、先染帯地（結城紬）
114	りょうぜん天蚕の会	福島県伊達市	ショール（天蚕紬糸、天蚕ハイブリッド）
115	(有) 金屋	新潟県上越市	後染反物（色無地）
116	(株) 鶴屋百貨店	熊本市中央区	胴裏（酵素精練）、先染反物（結城紬）
117	黄八丈めゆ工房	東京都八丈島	先染反物（黄八丈）
118	京屋呉服店	長野県塩尻市	後染反物（色無地）
119	(資) 車屋呉服店	横浜市南区	後染反物（色無地、江戸小紋）、白生地（表地）
120	宮崎 (株)	茨城県結城市	先染反物（結城紬）
121	(有) 内海呉服店 きもの千歳屋	東京都世田谷区	白生地（表地（色無地、訪問着））
122	長島繊維 (株)	栃木県足利市	後染反物（色無地、小紋、付下、訪問着）、後染帯地
123	(株) しょう美	広島市西区	後染反物（色無地）
124	(資) 治田呉服店	群馬県富岡市	後染反物（色無地）
125	(株) 丸十	大阪府東大阪市	後染反物（小紋）、ニット（靴下）
126	(株) 竹田嘉兵衛商店	名古屋市緑区	胴裏（酵素精練）
127	(有) 樋口屋京染店	埼玉県鴻巣市	白生地（表地用（紋意匠））
128	大門屋	福井県大野市	白生地（牛首紬）、後染帯地（牛首紬）、ショール（牛首紬）

表示者登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
129	(株) 加藤萬	東京都中央区	和装小物 (帯揚げ、半衿)
130	(株) しゃらく	愛媛県新居浜市	後染反物 (小紋)
131	(資) 山中商店	名古屋市中区	後染反物 (小紋)
132	きもの処あだち	大阪府藤井寺市	後染反物 (小紋)
133	西川産業 (株)	東京都中央区	寝具寝装品 (掛布団)
134	繭工房華美	宮城県塩竈市	寝衣 (長肌着、短肌着)
136	(株) 和想	鳥取県鳥取市	後染反物 (小紋)
137	(株) 高島屋呉服店	島根県益田市	後染反物 (小紋)
138	富岡シルクブランド協議会	群馬県富岡市	ネクタイ、褌、マフラー (手織り)
139	(株) 丸年呉服店	石川県金沢市	後染反物 (小紋)
140	(株) 染織館	徳島県徳島市	後染反物 (小紋)
141	(株) 京ろまん	奈良県奈良市	後染反物 (小紋)、ニット (靴下)
142	五嶋 (株)	東京都文京区	帯締
143	(株) わふくや	浜松市中区	長襦袢地
144	(株) 布屋呉服店	静岡県富士宮市	胴裏 (トルマリン加工)、後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
145	(有) 明石屋	東京都調布市	後染反物 (色無地)、後染帯地
146	宮井 (株)	京都市中京区	風呂敷
147	(株) ナカノ	大分県大分市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、加賀友禅)
148	(株) 芦田呉服店	京都府綾部市	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
149	(株) 甲斐絹座	山梨県富士吉田市	ネクタイ、服飾品 (スカーフ、ストール、トランクス)、パジャマ、袱紗
150	(有) さいとう呉服店	千葉県市川市	後染反物 (色無地、付下)
151	(株) 西松屋	兵庫県姫路市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
152	(株) 西尾呉服店	大阪市福島区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
153	勝山織物 (株)	京都市北区	先染帯地 (金銀糸が5%を超えるもの)
154	(有) 石川	群馬県みどり市	後染反物 (型友禅、羽二重色無地)、先染反物 (ジャガード織)
156	那覇伝統織物事業協同組合	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地、かりゆしウェア、ショール
157	(株) ふじや	福岡県朝倉市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
158	きものおかだ	兵庫県香美町	後染反物 (小紋)
159	(株) J S	山梨県富士吉田市	寝具寝装品 (ふとん、ふとんカバー)、洋装品 (スーツ地、コート地、スカート地、シャツ、ワンピース地)、服飾品 (スカーフ、ストール、ネックカバー、アームカバー、レッグカバー)
160	(株) マルシバ	東京都中央区	裏地 (胴裏)、和装小物 (袱紗)
161	(株) みつわ	大阪府大東市	後染反物 (小紋)
162	福続織物 (株)	福岡市西区	先染帯地 (本袋男帯、八寸名古屋帯)
163	(株) 大谷屋	新潟市中央区	白生地 (表地)
164	(株) 東京藤屋 (きものレディ着付け学院)	東京都品川区	白生地 (表地)
165	(株) 染織こうげい	東京都中央区	白生地 (表地)

表示者登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
166	近江真綿振興会	滋賀県米原市	寝具寝装品（布団、膝かけ）、ショール
167	(株) にしむら	兵庫県西脇市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
168	(有) きものおおにし	大阪府東大阪市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
169	(株) コノエ (そめの近江)	東京都豊島区	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））、ニット（靴下）
170	(株) つたや	大阪府枚方市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
171	(株) 京呉服小糸伸輔の店	熊本市東区	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
172	(株) マエノ	茨城県石岡市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
173	(株) 本きもの松葉	大阪府富田林市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
174	(有) 山田呉服店	長野県諏訪市	白生地（変り縮緬）、先染反物（大島紬）
175	(株) 呉服のながいけ	長崎県南島原市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
176	(株) 京呉服平田	福井県福井市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
177	(株) 布四季庵ヨネオリ	山形県米沢市	先染反物（置賜紬）、ストール
178	奄美島絹推進協議会	鹿児島県龍郷町	先染反物（大島紬）、先染帯地（大島紬）
179	(株) 宮坂製糸所	長野県岡谷市	先染帯地（八寸名古屋帯）
180	(有) シンセイ	長野県松本市	ニット（腹巻、靴下）
181	(株) 百花	横浜市中区	後染反物（小紋（変一越））
182	京呉服好一 (株)	京都市北区	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
183	(株) パールトーン	京都市右京区	胴裏（パールトーン加工）
184	きもの専科まさ井	兵庫県三木市	後染反物（小紋（変一越））
185	マテリアル ロープ 鷹	東京都練馬区	後染反物（小紋（変一越））
186	(株) せんば呉服	兵庫県尼崎市	後染反物（小紋（変一越）、訪問着）、先染反物（絛着尺）
187	(株) 三越伊勢丹	東京都新宿区	白生地（表地）、帯締、羽織紐、帯締（金銀糸が5%を超えるもの）、ジャケット地
188	青山きもの (株)	東京都港区	白生地（表地）
189	ニット青木 (株)	東京都品川区	ニット（スーツ・パンツ、スーツ・スカート、ジャケット、アンサンブル、インナー）
190	渡豊工房	山形県山辺町	先染反物（綾御召（男物、女物））、裏地（紬八掛）
191	(株) リンクピース	福岡市博多区	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
192	きもの宮下（（有）新宮）	宮崎県宮崎市	後染反物（小紋（変一越））
193	アトリエ I T O 伊藤峯子	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
194	遊生染織工房 築城則子	北九州市八幡東区	先染反物
195	染織家 杉浦晶子	愛知県高浜市	先染反物、先染帯地
196	(株) 夢工芸染の新井	東京都足立区	白生地（変り縮緬）、先染反物（大島紬）
197	(株) 嵯が野	埼玉県川越市	白生地（変り縮緬）、先染反物（大島紬）
198	(株) カインドウェア	東京都千代田区	ストール、ネクタイ
199	(株) 新田	山形県米沢市	後染反物（ぼかし着尺）
200	(株) ソーホー	京都市下京区	白生地（紋意匠無地縮緬・紋意匠縮緬）、後染反物（本加賀訪問着）、先染反物（大島紬）
201	(株) すずのき	東京都品川区	後染反物（訪問着・色無地）
202	メーカーズシャツ鎌倉 (株)	神奈川県鎌倉市	ニット（肌着）

表示者登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
203	(株) 丸本岩崎	北海道函館市	裏地 (胴裏絹)
204	(株) 緒方商店 (きもの心おがた)	愛媛県八幡浜市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
205	富士新幸 (株)	山梨県都留市	真綿布団
206	(有) 浅井ローケツ	京都市中央区	後染反物 (色無地・藍染)
207	(有) 呉服のうめね	北九州市小倉北区	白生地 (変一越)
208	(株) ADESSO (きもの工房一休)	神戸市中央区	白生地 (変一越)
209	森秀織物 (株)	群馬県桐生市	先染反物 (御召)
210	(株) 龍村美術織物	京都市中京区	先染帯地 (本袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
211	(株) 長沼 (長沼静きもの学院)	東京都渋谷区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
212	(株) 国際商事	東京都板橋区	ショール
213	窪田織物 (株)	鹿児島県鹿児島市	先染反物 (大島紬)

蚕糸絹関係博物館一覧

名 称	〒	住 所	電 話
一般財団法人北海道開拓の村	004-0006	北海道札幌市厚別区厚別町小野幌 50-1	011-898-2692
ひころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 16	0238-22-8141
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 87	0238-23-3525
夕鶴の里資料館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025 - 2	0238-47-5800
松ヶ岡開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ岡 29	0235-62-3985
公益財団法人致道（ちどう）博物館	997-0036	山形県鶴岡市家中新町 10 - 18	0235-22-1199
酒田市美術館	998-0055	山形県酒田市飯森山三丁目 17 - 95	0234-31-0095
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 - 1	024-565-4889
結城市伝統工芸館	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018 - 1	0296-32-7949
足利織物伝承館	326-0814	栃木県足利市通 3-2589	0284-22-3004
足利まちなか遊学館	326-0814	栃木県足利市通 1-2673-1	0284-41-8201
足利織姫神社	326-0817	栃木県足利市西宮町 3889	0284-22-0313
那須野が原博物館	329-2752	栃木県那須塩原市三島 5 - 1	0287-36-0949
高崎市歴史民俗資料館	370-0027	群馬県高崎市上滝町 1058	027-352-1261
群馬県立歴史博物館	370-1293	群馬県高崎市綿貫 992 - 1（群馬の森公園内）	027-346-5522
おかいこステーション	370-3401	群馬県高崎市倉渕町権田 5344 - 1235	027-340-6060
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
富岡製糸場	370-2316	群馬県富岡市富岡 1 - 1	0274-64-0005
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地（敷島公園バラ園内）	027-231-9875
織物参考館“紫（ゆかり）”	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
桐生織物記念館（桐生織物協同組合）	376-0044	群馬県桐生市永楽町 6 - 6	0277-43-2510
コノドント館みどり市大間々博物館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
たくみの里木織の家「椽（つるばみ）」	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-1308
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
ちちぶ銘仙館	368-0032	埼玉県秩父市熊木町 28-1	0494-21-2112
秩父ふるさと館	368-0044	埼玉県秩父市本町 3-1	0494-23-7300
きもの芸術館（一般財団法人国際文化きもの学会）	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1-6-8 清水学園ビル 6F ～ 8F	03-3400-0286
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3 - 22 - 7	03-3299-2387
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3 - 26 - 2	0424-81-7656
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2 - 24 - 16	042-388-7163
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鎌水 989 - 2	0426-76-4064
八王子市郷土資料館	192-0902	東京都八王子市上野町 33	042-622-8939
町田市立博物館	194-0032	東京都町田市本町田 3562	042-726-7531
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市羽 741	042-558-2561
シルク博物館	231-0023	横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
神奈川県立歴史博物館	231-0006	横浜市中区南仲通 5-60	045-201-0926
相模田名民家資料館	229-1124	相模原市田名 4853 番 2（大杉公園隣り）	042-761-7118
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1 - 8 - 25	0258-83-4800

名 称	〒	住 所	電 話
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
塩沢つむぎ記念館（織の文化館）	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227 - 1	0257-82-4888
白山工房（織りの資料館）	920-2501	石川県白山市白峰村ヌ 17	076-259-2859
はたや記念館ゆめおーれ勝山	911-0802	福井県勝山市昭和町 1 - 7 - 40	0779-87-1200
中央市豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619 - 1	055-269-3399
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
常田館（絹の資料館）	386-0018	長野県上田市常田 1 - 10 - 3 笠原工業（株）内	0268-22-1230
信州大学繊維学部資料館	386-8567	長野県上田市常田 3-15-1 信州大学繊維学部内	0268-21-5454
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号（上田城跡公園内）	0268-22-1274
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564 - 1	0268-42-2158
絹糸紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ（株）内	0268-41-1800
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
日本司法博物館（松本歴史の里）	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196 - 1	0263-47-4515
岡谷蚕糸博物館（シルクファクトおかや）	394-0021	長野県岡谷市郷田 1 丁目 4 番 8 号	0266-23-3489
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618 - 4	0263-83-3835
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299 - 1	0574-28-1110
石川繊維資料館	400-0886	愛知県豊橋市東小田原町 109 - 1	0532-52-5265
豊田市稲武郷土資料館ちゅーま	441-2524	愛知県豊田市黒田町南水別 713	0565-82-3439
豊橋市民俗資料収蔵室	440-0021	愛知県豊橋市多米町滝の谷 34-1-1	0532-63-2026
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204 - 1	059-293-0010
手おりの里・金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野外 514	0749-37-4131
織物文化館	601-1123	京都市左京区静市市原町 265 川島織物セルコン内	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
織成館	602-8482	京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町 693 番地	075-431-0020
千總ギャラリー	604-8166	京都市中京区御倉町 80 番地千總本社ビル 2 階	075-211-2531
絹の白生地資料館	604-8176	京都市中京区龍池町 448 - 2 伊と幸ビル	075-254-5884
まゆ村	616-8384	京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
グンゼ博物苑	623-0011	京都府綾部市青野町 グンゼ（株）周辺敷地内	0773-43-1050
織元田勇	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112 田勇機業（株）内	0772-72-0307
上垣守国（うえがきもりくに）養蚕記念館	667-0321	兵庫県養父市大屋町蔵垣 246 - 2	079-669-1580
デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）	651-0082	神戸市中央区小野浜町 1-4	078-325-2201
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町越知甲 1577 番地	0889-26-1002
藤村製糸記念館	781-6402	高知県安芸郡奈半利町乙 2630	0887-38-4711

蚕糸絹関係機関ホームページ一覧

【行政】

農林水産省
経済産業省

<http://www.maff.go.jp>
<http://www.meti.go.jp>

【蚕糸絹業関係団体】

(一財) 大日本蚕糸会
(一財) 大日本蚕糸会 ジャパンシルクセンター
(一社) 日本絹人繊維物工業会
(一財) 日本真綿協会
丹後織物工業組合
西陣織工業組合
T A F S (東京織物卸商業組合)
K O M S (京都織物卸商業組合)
(公財) 京都和装産業振興財団
(一財) 伝統的工芸品産業振興協会
蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会

<http://www.silk.or.jp>
<http://www.silk-center.or.jp>
<http://www.kinujinsen.com>
<http://www.mawata.or.jp>
<http://www.tanko.or.jp>
<http://www.nishijin.or.jp>
<http://www.tafs.or.jp>
<http://www.fashion-kyoto.or.jp>
<http://www.wasou.or.jp/wasou/index.html>
<http://www5.somard.co.jp>
<http://takaraginu.com>

【大学・試験研究機関】

(国研) 農業生物資源研究所 <http://www.nias.affrc.go.jp>
(国) 北海道大学応用分子生物学分野応用分子昆虫学研究室 <http://www.agr.hokudai.ac.jp/rfoa/abs/abs2-1.html>
(国) 岩手大学農学部生命資源科学コース応用昆虫学研究室 <http://news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/departament2/agri/life.html>
(国) 宇都宮大学農学部昆虫機能利用学研究室
http://shigen.mine.utsunomiya-u.ac.jp/insectbiotechnology/insect_physiology/seiri-research/
(国) 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻昆虫遺伝研究室
<http://papilio.ab.a.u-tokyo.ac.jp/igb/index-J.html>
(国) 東京農工大学農学部生物生産学科 <http://www.tuat.ac.jp/~aaseisan>
(国) 東京農工大学工学部生命工学科 <http://www.tuat.ac.jp/~seimei>
(国) 名古屋大学農学部 <http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>
(国) 信州大学繊維学部 <http://www.tex.shinshu-u.ac.jp>
(国) 京都工芸繊維大学工芸科学部応用生物学課程 <http://www.bio.kit.ac.jp>
(国) 鳥取大学農学部生物資源環境学科昆虫機能学教育研究分野 <http://muses.muses.tottori-u.ac.jp/>
(国) 山口大学農学部生物資源環境科学科 <http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/bioenvi/research2.html>
(国) 九州大学大学院生物資源環境科学府蚕学研究室 <http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/sangaku>
群馬県蚕糸技術センター <http://www.pref.gunma.jp/07/p14710007.html>
群馬県繊維工業試験場 <http://www.pref.gunma.jp/07/p20210013.html>
京都府繊維・機械金属振興センター <http://www.pref.kyoto.jp/oriki/>
(地独) 京都市産業技術研究所 <http://www.tc-kyoto.or.jp>
(公財) 衣笠繊維研究所 <http://krf-textile.or.jp>
(一財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所 http://www.silk.or.jp/silk_kagaku/index.html
(一財) 大日本蚕糸会 蚕業技術研究所 http://www.silk.or.jp/silk_gijyutu/index.html

【学会】

日本シルク学会
(一社) 日本蚕糸学会
日本野蚕学会

<http://jsst.sakura.ne.jp>
<http://jsss.or.jp>
<http://jswsmo.appspot.com>

【博物館】

(一財) シルクセンター-国際貿易観光会館 シルク博物館
群馬県立日本絹の里
愛媛県西予市野村シルク博物館
東京農工大学科学博物館

<http://www.silkmuseum.or.jp>
<http://www.nippon-kinunosato.or.jp>
<http://www.city.seiyo.ehime.jp/soshiki/silkmuseum>
<http://www.tuat.ac.jp/~museum>

【博物館】

駒ヶ根シルクミュージアム
織成館（京都・上京）
高崎市染料植物園
群馬県立歴史博物館
岡谷蚕糸博物館（シルクファクトおかや）
はたや記念館ゆめおーれ勝山

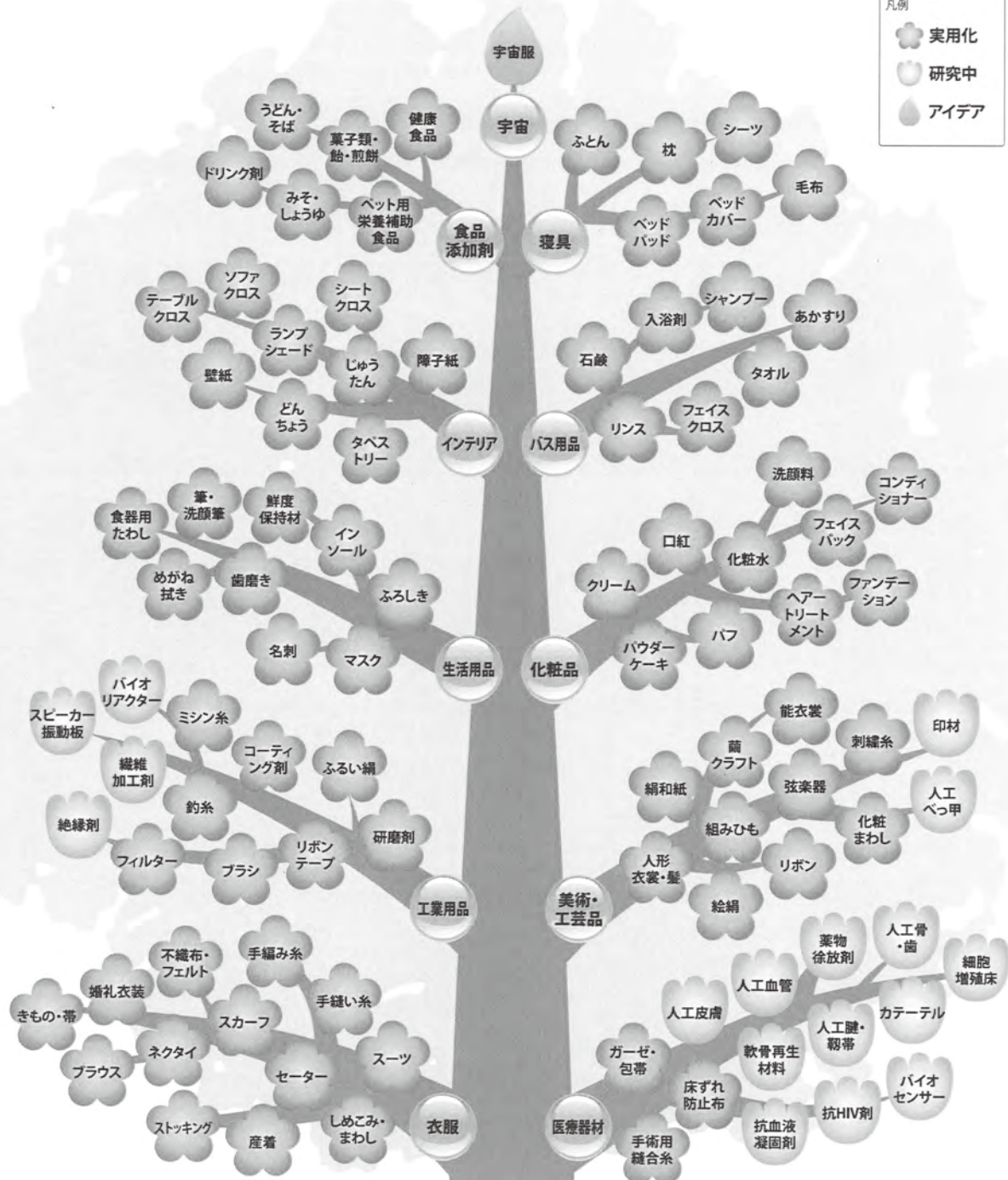
<http://www.cek.ne.jp/~shiruku>
<http://orinasukan.skr.jp>
<http://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/201401140097>
<http://grekisi.pref.gunma.jp>
<http://silkfact.jp>
<http://www.city.katsuyama.fukui.jp/hataya>

【富岡製糸場と絹産業遺産群】

富岡製糸場
群馬県 企画部 世界遺産課
ぐんま絹遺産
上毛新聞社関連記事

<http://www.tomioka-silk.jp/hp/index.html>
<http://worldheritage.pref.gunma.jp/ja>
<http://worldheritage.pref.gunma.jp/kinuisan>
http://jomo-news.co.jp/ns/series/silk_index.html

絹利用の系統樹



絹利用検討会 (2012年)

原図: 小松 計一

統計資料目次

<国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	50
(2) 養蚕農家数の推移	51
(3) 繭生産数量の推移	52
(4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数	53
(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量	54
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移	55
(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	56
(8) 生糸の織度別生産数量の推移	57
(9) 絹需給の推移（生糸量換算試算）	58
(10) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）	59
(11) 製糸工場の原料繭需給	60
(12) 製糸工場の操業状況	61
(13) 生糸在庫数量の内訳	62
(14) 蚕糸関係品目別輸入状況	63
(15) 生糸の原産国別輸入数量	64
(16) 絹糸の原産国別輸入数量	65
(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価	66
(18) 絹織物生産数量	67
(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	68
(20) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況	69

<海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	70
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	71
(3) 中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量	72
(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移	73
(5) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格	74
(6) 中国企業別従業員年間賃金総額及び対前年指数	75
(7) 中国企業別従業員年間平均賃金及びその対前年指数	76
(8) 中国産業別従業員年平均賃金の推移	77
(9) 中国省別従業員年平均賃金(2014年)	78
(10) ブラジルの繭・生糸生産数量の推移	79

一 資料・国内一

(1) 蚕糸絹業の概要

Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 item 年次（暦年） Calendar year	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk- Raising Farmer	収繭量 Cocoon Production	1戸当 収繭量 Cocoon Production per Farmer	生糸 生産量 Raw Silk Production	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織機 設備台数 (保有台 数) Number of Silk Loom	絹織物 生産量 Silk Fabric Production
	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq. meters
(平成)								
1997 (9)	6,310	2,516	399	31.5	18	67	81.6	52,031
1998 (10)	5,070	1,980	390	18.4	13	76	74.5	38,673
1999 (11)	4,030	1,496	371	10.8	8	73	67.4	33,425
2000 (12)	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
2001 (13)	2,730	1,031	378	7.2	8	63	56.8	29,801
2002 (14)	2,360	880	373	6.5	17	68	51.2	26,826
2003 (15)	2,070	780	377	4.8	14	64	48.7	23,935
2004 (16)	1,850	683	369	4.4	13	62	45.6	21,895
2005 (17)	1,591	626	393	2.5	10	62	43.7	19,816
2006 (18)	1,345	505	375	2.0	9	82	41.6	18,507
2007 (19)	1,169	433	370	1.8	8	83	40.0	15,466
2008 (20)	1,021	382	374	1.6	7	80	38.1	14,043
2009 (21)	915	327	357	1.2	7	60	33.6	11,472
2010 (22)	756	265	351	0.9	7	49	35.9	11,612
2011 (23)	627	220	351	0.7	7	52	34.7	10,418
2012 (24)	571	202	354	0.5	7	35	33.3	9,974
2013 (25)	486	168	346	0.4	7	35	32.0	10,054
2014 (26)	393	149	379	0.4	7	35	—	9,368
前年対比(%) 2014/13	80.9	88.7	109.7	100.0	100.0	100.0	—	93.2

資料 ・ 平成20年以前の養蚕業及び製糸業は、農林水産省調査によるものである。

・ 平成21年以降の養蚕業は、全国農業協同組合連合会及び（一財）大日本蚕糸会調査である。

・ 平成21年以降の製糸業は、中央蚕糸協会及び（社）日本生糸問屋協会調査である。

・ 平成20年以前の絹業は経済産業省調査であり、平成21年以降絹業は（一社）日本絹人織機物工業会調査である。
平成18年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。

・ 平成23年以降の養蚕業は（一財）大日本蚕糸会調査である。

（注）製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況であるが、平成14年以降はすべての製糸工場のものである。

Source: ・ Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling, before 2008)
・ National Federation of Agricultural Co-operative Associations and The Dainippon Silk Foundation (Sericultural Industry, after 2009)
・ Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (Silk-Reeling, after 2009)
・ The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric, before 2008)
・ Japan Silk & Rayon Weaver's Association (Silk Fabric, after 2009)

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills. (After 2002, all reeling mills)

(2) 養蚕農家数の推移

Farm households raising silk-worm

(単位：戸)
(Unit: number)

年次 Year	項目 Item	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
1994		19,040	16,790	13,190	14,790
1995		13,640	12,450	9,560	9,580
1996		7,890	6,980	5,000	6,290
1997		6,310	5,650	4,420	5,120
1998		5,070	4,550	3,750	4,120
1999		4,030	3,600	2,710	3,280
2000		3,280	2,970	2,170	2,700
2001		2,730	2,410	1,870	2,270
2002		2,360	1,992	1,720	1,918
2003		2,070	1,875	1,503	1,751
2004		1,850	1,621	1,371	1,551
2005		1,591	1,420	1,061	1,345
2006		1,345	1,215	852	1,102
2007		1,169	1,052	726	988
2008		1,021	929	613	857
2009		915	814	647	755
2010		756	650	494	637
2011		627	562	358	531
2012		571	514	319	462
2013		486	422	260	399
2014		393	359	230	328
対前年比 2014/13 (%)		80.9	85.1	88.5	82.2

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年）、
農林水産省生産局調査（2005～2008年）、（一財）大日本蚕糸会調査（2009年～）。

Source：The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008年).
The Dainippon Silk Foundation (2009年～)

(3) 繭生産数量の推移 Cocoon Production

項 目 Item 年 次 Year	年 計 Annual total				1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm			
	年 間	春 蚕	初秋蚕	晩秋蚕	年 間	春 蚕	初秋蚕	晩秋蚕
	Annual total	Spring silk-worm	early autumn silk-worm	Late autumn silk-worm	Annual total	Spring silk-worm	early autumn silk-worm	Late autumn silk-worm
	t	t	t	t	kg	kg	kg	kg
1994	7,724	3,036	2,044	2,644	406	181	155	170
1995	5,350	2,222	1,477	1,651	392	178	155	172
1996	3,021	1,184	747	1,090	382	170	149	173
1997	2,516	982	678	857	398	174	153	167
1998	1,980	769	588	623	390	169	157	151
1999	1,496	596	391	509	371	166	144	155
2000	1,244	500	320	424	379	169	148	157
2001	1,031	391	275	365	378	162	147	161
2002	880	330	231	320	373	166	134	167
2003	775	313	210	253	374	167	140	144
2004	675	256	176	243	369	158	128	157
2005	626	243	165	218	396	171	156	162
2006	505	209	122	173	375	172	143	157
2007	433	175	110	148	371	166	152	150
2008	382	147	96	139	374	158	157	162
2009	327	124	85	118	357	152	131	156
2010	265	107	60	98	351	165	121	154
2011	220	95	49	76	351	169	136	143
2012	202	79	50	73	354	155	156	159
2013	168	61	41	67	346	145	158	168
2014	149	55	36	58	379	153	157	176
対前年比 2014/13 (%)	88.7	90.2	87.8	86.6	109.6	105.8	99.6	104.8
2014年 構成比 (%)	100.0	36.9	24.2	38.9				

資 料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年）、
農林水産省生産局調査（2005～2008年）、（一財）大日本蚕糸会調査（2009年～）。

Source：The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries（～2001）.
National Federation of Agricultural Co-operative Associations（2002～2004）.
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries（2005～2008年）.
The Dainippon Silk Foundation（2009年～）

(4)蚕期別、都府県別養蚕農家戸数

Farm households raising silk-worm by prefectures

(単位:戸、%)

都府県名	春蚕期			初秋蚕期			晩秋蚕期			年 間		
	25年	26年	前年対比	25年	26年	前年対比	25年	26年	前年対比	25年	26年	前年対比
青森県	0	—	—	1	1	100.0	1	1	100.0	1	1	100.0
岩手県	14	15	107.1	14	10	71.4	17	15	88.2	19	18	94.7
宮城県	17	11	64.7	10	11	110.0	13	14	107.7	21	17	81.0
山形県	7	7	100.0	6	5	83.3	6	6	100.0	8	8	100.0
福島県	53	40	75.5	23	41	178.3	57	47	82.5	58	48	82.8
茨城県	18	18	100.0	13	11	84.6	15	13	86.7	21	18	85.7
栃木県	22	23	104.5	17	18	105.9	23	23	100.0	26	23	88.5
群馬県	157	130	82.8	107	84	78.5	160	120	75.0	181	140	77.3
埼玉県	36	30	83.3	28	20	71.4	29	27	93.1	41	31	75.6
千葉県	7	6	85.7	5	5	100.0	7	5	71.4	7	6	85.7
東京都	4	4	100.0	0	—	—	4	3	75.0	5	4	80.0
新潟県	10	8	80.0	0	—	—	0	—	—	10	8	80.0
福井県	1	1	100.0	1	1	100.0	1	1	100.0	1	1	100.0
山梨県	9	11	122.2	7	5	71.4	13	11	84.6	15	12	80.0
長野県	21	14	66.7	16	10	62.5	18	13	72.2	22	17	77.3
岐阜県	13	11	84.6	0	—	—	12	9	75.0	13	11	84.6
愛知県	2	2	100.0	0	—	—	1	—	—	2	2	100.0
京都府	4	3	75.0	0	—	—	3	2	66.7	4	3	75.0
兵庫県	1	1	100.0	0	—	—	1	1	100.0	1	1	100.0
愛媛県	12	11	91.7	7	5	71.4	10	9	90.0	15	11	73.3
高知県	3	3	100.0	0	—	—	2	2	100.0	3	3	100.0
熊本県	6	5	83.3	0	—	—	3	2	66.7	7	5	71.4
宮崎県	2	2	100.0	2	—	—	0	1	—	2	2	100.0
鹿児島県	3	3	100.0	3	3	100.0	3	3	100.0	3	3	100.0
全国計	422	359	85.1	260	230	88.5	399	328	82.2	486	393	80.9

資料:(一財)大日本蚕糸会調査

Source:The Dainippon Silk Foundation

(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量 Cocoon production by prefectures

(単位 : kg、%)

都府県等	春 蚕 期			初 秋 蚕 期			晩 秋 蚕 期			年間		
	25年	26年	前年対比	25年	26年	前年対比	25年	26年	前年対比	25年	26年	前年対比
青森県	-	-	-	119.3	113.7	95.3%	151.9	93.7	61.7%	271.2	207.4	76.5%
岩手県	1,928.5	1,619.2	84.0%	2,348.0	1,450.7	61.8%	2,597.2	1,989.4	76.6%	6,873.7	5,059.3	73.6%
宮城県	2,369.7	1,791.2	75.6%	2,242.6	2,267.0	101.1%	2,699.2	2,363.9	87.6%	7,311.5	6,422.1	87.8%
山形県	1,311.0	1,222.5	93.2%	821.9	597.6	72.7%	1,482.0	1,570.4	106.0%	3,614.9	3,390.5	93.8%
福島県	10,475.9	8,335.8	79.6%	9,996.8	8,246.5	82.5%	13,435.7	11,998.8	89.3%	33,908.4	28,581.1	84.3%
茨城県	2,925.2	2,335.3	79.8%	1,499.5	1,314.7	87.7%	2,652.3	2,292.5	86.4%	7,077.0	5,942.5	84.0%
栃木県	5,923.3	8,047.0	135.9%	4,015.9	4,528.4	112.8%	9,809.9	10,309.9	105.1%	19,749.1	22,885.3	115.9%
群馬県	21,487.6	19,166.0	89.2%	13,463.2	11,382.4	84.5%	22,606.5	16,456.4	72.8%	57,557.3	47,004.8	81.7%
埼玉県	5,215.7	3,796.1	72.8%	2,854.0	2,191.5	76.8%	4,657.7	3,708.5	79.6%	12,727.4	9,696.1	76.2%
千葉県	917.5	1,001.6	109.2%	490.4	568.2	115.9%	1,028.4	1,026.2	99.8%	2,436.3	2,596.0	106.6%
東京都	242.3	210.4	86.8%	-	-	-	165.1	133.0	80.6%	407.4	343.4	84.3%
山梨県	2,157.8	2,372.2	109.9%	420.6	813.6	193.4%	1,495.4	1,882.0	125.9%	4,073.8	5,067.8	124.4%
長野県	1,951.5	1,813.2	92.9%	1,413.7	1,319.9	93.4%	1,864.9	1,771.7	95.0%	5,230.1	4,904.8	93.8%
新潟県	131.9	124.6	94.5%	-	-	-	-	-	-	131.9	124.6	94.5%
福井県	27.6	41.7	151.1%	14.3	33.3	232.9%	37.6	34.5	91.8%	79.4	109.4	137.8%
岐阜県	803.1	673.5	83.9%	-	-	-	439.0	568.3	129.5%	1,242.1	1,241.8	100.0%
愛知県	80.5	58.4	72.5%	0.0	-	-	17.7	0.0	0.0%	98.2	58.4	59.5%
兵庫県	40.0	55.0	137.5%	0.0	-	-	35.0	65.0	185.7%	75.0	120.0	160.0%
京都府	102.9	82.7	80.4%	-	-	-	40.8	41.5	101.7%	143.7	124.3	86.5%
愛媛県	1,753.0	1,596.1	91.0%	1,005.8	952.2	94.7%	1,186.9	1,141.8	96.2%	3,945.7	3,690.1	93.5%
高知県	162.0	177.7	109.7%	-	-	-	16.0	82.4	515.0%	178.0	260.1	146.1%
熊本県	463.3	459.2	99.1%	-	-	-	340.1	73.6	21.6%	803.4	532.8	66.3%
宮崎県	88.1	113.7	129.1%	-	-	-	95.6	34.4	36.0%	183.7	148.1	80.6%
鹿児島県	46.6	82.0	176.0%	43.3	77.0	177.8%	57.5	71.0	123.5%	147.4	230.0	156.0%
全国計	60,604.8	55,175.0	91.0%	40,749.3	35,856.6	88.0%	66,912.4	57,708.9	86.2%	168,266.4	148,740.5	88.4%

資料：(一財)大日本蚕糸会調査

Source: The Dainippon Silk Foundation

(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移
Production by Sort of Silk-Worm Eggs

Item	Year	2011年 (平成23年)		2012年 (平成24年)		2013年 (平成25年)		2014年 (平成26年)	
		箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %
錦秋1号 × 鐘和1号		2,729	24.6	2,806	27.6	2,450	21.9	3,278	33.4
錦秋 × 鐘和月		2,100	19.0	1,818	17.8	3,221	28.8	1,754	15.7
春嶺 × 鐘和月		1,002	9.0	838	8.2	1,871	16.7	1,116	10.0
ぐんま200号		1,388	12.5	1,443	14.2	1,125	10.1	1,104	9.9
春嶺1号 × 鐘月1号		1,419	12.8	1,175	11.5	380	3.4	872	7.8
松岡 × 姫		300	2.7	340	3.3	547	4.9	350	3.1
かいりょう × あけぼの丸		435	3.9	416	4.1	166	1.5	140	1.3
小石 × 丸		72	0.6	67	0.7	76	0.7	134	1.2
新小石 × 丸		396	3.6	324	3.2	317	2.8	129	1.2
プー × ナボ一		66	0.6	64	0.6	76	0.7	128	1.1
ぐんま × 黄		76	0.7	70	0.7	47	0.4	126	1.1
白繭 × 細1		77	0.7	93	0.9	64	0.6	103	0.9
いろ × ど		134	1.2	55	0.5	85	0.8	92	0.8
朝日 × 東		50	0.5	50	0.5	111	1.0	76	0.7
改良 × 小石		78	0.7	33	0.3	67	0.6	58	0.5
蚕技 × 研11号		52	0.5	36	0.4	48	0.4	52	0.5
山東3眠 × C5・507						53	0.5	42	0.4
白世 × 紀二						7	0.1	33	0.3
大秋 × 寶黄		132	1.2	95	0.9	92	0.8	31	0.3
黄玉 × 小		5	0.0			71	0.6	23	0.2
緑極 × 繭細21		15	0.1	33	0.3	63	0.6	23	0.2
極 × 繭細1		22	0.2	15	0.1			22	0.2
Nk × Cu1		5	0.0	15	0.1	42	0.4	20	0.2
太白 × 長2		13	0.1	28	0.3	17	0.2	20	0.2
青熟 × 支21		2	0.0	7	0.1	41	0.4	18	0.2
支21 × 四川3		8	0.1	4	0.0	21	0.2	16	0.1
N5 × N6		6	0.1					10	0.1
奄極 × 美細繭						49	0.4	8	0.1
玉緑 × 繭						6	0.1	8	0.1
鷹108号 × 青C5・505						4	0.0	5	0.0
支山 × 熟中515号								4	0.0
青又 × 昔くばね		180	1.6	143	1.4			4	0.0
芙は × ぐきくばね		22	0.2	80	0.8			4	0.0
朝改 × 良多蚕繭		80	0.7	61	0.6			4	0.0
琉球 × C5		2	0.0	10	0.1			2	0.0
山中515号 × 又昔興号				7	0.1				
諸鬼 × 紹中515号				7	0.1				
上州 × 絹星		86	0.8	2	0.0				
鐘光 × 黄銀		30	0.3	1	0.0				
秋花 × 玉嶺		3	0.0	1	0.0				
合計 Total		11,080	100.0	10,185	100.0	11,174	100.0	9,808	100.0

資料：(一財)大日本蚕糸会調査。

Source：The Dainippon Silk Foundation.

(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況

Raw Silk Supply / Demand Balance and Import/Export of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item 年月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
	生産数量 Production (A)	輸入数量 Imports (B)	輸出数量 Exports (C)	国内引渡 数量 Domestic Deliveries (D)	期末在庫 数量 Ending Stocks (E)	輸入数量 Imports (F)	輸出数量 Exports (G)	輸入数量 Imports (H)	輸出数量 Exports (I)
暦 年 Calendar Year	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
2005	2,508	22,017	4,125	26,429	8,178	32,700	609	15,928	8,261
2006	1,956	19,974	—	20,752	9,356	31,514	568	12,826	7,586
2007	1,747	12,601	—	15,624	8,080	19,439	404	11,409	7,186
2008	1,588	15,212	270	20,026	4,584	22,636	466	11,696	7,131
2009	1,152	12,075	133	13,623	4,055	16,657	387	9,028	6,271
2010	882	12,207	595	13,220	3,329	16,306	324	8,930	6,302
2011	731	9,323	578	10,349	2,456	17,526	427	8,422	6,229
2012	506	10,032	419	10,274	2,180	16,179	320	7,218	5,545
2013	409	9,332	292	9,919	1,712	15,844	426	6,662	5,431
2014	446	8,235	14	8,726	1,653	14,820	330	6,098	5,125
2015		6,479	0			14,051	302	5,468	5,085
2013 — 1	38	958	0	1,014	2,162	1,744	11	582	356
2	32	906	0	818	2,282	1,138	13	505	409
3	36	1,148	122	912	2,432	1,337	44	456	525
4	36	0	2	565	1,901	1,552	16	601	485
5	35	1,314	0	969	2,281	1,628	23	679	483
6	36	926	0	977	2,266	1,175	21	592	479
7	28	611	0	702	2,203	1,326	66	671	461
8	19	758	168	715	2,097	1,288	61	501	416
9	26	566	0	743	1,946	918	68	447	403
10	40	855	0	934	1,907	1,354	45	567	465
11	42	491	0	739	1,701	1,351	19	570	500
12	41	800	0	830	1,712	1,033	40	491	450
2014 — 1	30	776	0	679	1,839	1,579	13	684	324
2	39	591	0	582	1,887	677	21	296	485
3	35	1,055	10	976	1,991	1,338	15	487	511
4	42	270	0	547	1,756	1,392	30	474	521
5	41	927	0	725	1,999	1,332	26	570	486
6	45	869	0	946	1,967	1,355	30	643	380
7	39	599	0	728	1,877	1,311	45	553	429
8	24	548	0	663	1,786	1,203	25	475	362
9	32	591	0	681	1,728	1,411	41	422	359
10	43	748	0	794	1,725	1,121	22	510	447
11	34	667	0	784	1,642	1,008	36	446	392
12	43	600	3	629	1,653	1,094	27	534	428
2015 — 1	35	722	0	663	1,747	1,422	14	449	380
2	44	614	0	647	1,758	1,045	7	539	342
3	37	802	0	686	1,911	693	17	271	469
4	38	0	0	531	1,418	1,165	27	461	428
5	29	822	0	719	1,550	1,591	50	530	479
6	37	628	0	680	1,535	1,293	32	463	432
7	30	572	0	638	1,499	1,283	40	484	442
8	25	467	0	494	1,497	1,238	47	371	391
9	23	479	0	511	1,488	1,152	30	364	380
10	28	462	0	517	1,461	1,161	16	549	504
11	25	530	0	509	1,507	1,024	6	522	403
12		380	0			983	17	407	434

資 料 : (A) (C) (D) (E) 農林水産省生産局調査 (～2010.3)、中央蚕糸協会及び日本生糸問屋協会 (2010.4～2012.3)、中央蚕糸協会 (2012.12～)。(B) 財務省関税局調査、ただし96年1月から08年3月までの輸入は、農畜産業振興機構調査の実需者輸入分と一般者輸入分を合わせた数値。(F) (G) (H) (I) 財務省関税局調査。

備 考 : 1. 国内引渡数量 (D) = { 前月在庫数量 + (A) + (B) } - { (C) + (E) }。
2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。
3. (D) と (E) は2012年11月までと同年 1 2 月以降調査方法が変更したため連続性はない。

Source : (A) (C) (D) (E) The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2010.3)、Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (2010.4～2012.11)、Central Raw Silk As (2012.12～)。

(B) The Customs Bureau, Ministry of Finance. But the figures for raw silk imports have been based on date of the Agriculture & Livestock Industries Corporation since Jan.1996 until Mar.2008, excluding bonded silk.

(F) (G) (H) (I) The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : 1. Domestic deliveries (D) = { Stock at end of the previous month + (A) + (B) } - { (C) + (E) }。
2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(8) 生糸の織度別生産数量の推移
Raw Silk Production by Sizes

(単位 : 60kg俵)
(Unit : Bales of 60kg)

項目 Item 年 月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					
	計 Total	18デニール以下 17/19or 17/19 finer	21デニール 20/22	27デニール 26/28	31デニール 30/32	その他 Others
暦 年 Calendar Year						
2005	2,508	8	337	834	799	527
2006	1,956	4	240	531	653	523
2007	1,747	5	259	495	514	474
2008	1,588	4	289	421	368	503
2009	1,152	1	243	392	251	262
2010	882	1	179	316	86	300
2011	731	1	188	249	89	204
2012	506	—	149	202	73	82
2013	409	—	109	105	57	138
2014	447	—	114	116	62	155
2012 - 5	53	—	23	8	13	9
6	49	—	15	29	0	5
7	36	—	11	10	4	11
8	24	—	8	12	0	4
9	33	—	5	21	0	7
10	39	—	14	14	4	7
11	36	—	18	16	0	2
12	43	—	10	21	5	7
2013 - 1	38	—	16	3	10	9
2	32	—	6	12	5	9
3	36	—	10	15	3	8
4	36	—	7	13	6	10
5	35	—	8	9	9	9
6	36	—	8	13	0	15
7	28	—	8	5	1	14
8	19	—	7	1	0	11
9	26	—	13	1	2	10
10	40	—	9	6	11	14
11	42	—	9	12	6	15
12	41	—	8	15	4	14
2014 - 1	30	—	9	3	2	16
2	39	—	10	4	0	25
3	35	—	14	6	6	9
4	42	—	7	11	7	17
5	41	—	9	17	5	10
6	45	—	13	12	5	15
7	39	—	13	8	8	10
8	24	—	1	15	0	8
9	32	—	9	10	1	12
10	43	—	10	8	11	14
11	34	—	9	12	9	4
12	43	—	10	10	8	15
2015 - 1	35	—	10	12	6	7
2	44	—	6	12	12	14
3	37	—	17	11	4	5
4	38	—	16	2	8	12
5	29	—	13	4	0	12
6	37	—	15	6	2	14
7	30	—	13	6	0	11
8	25	—	8	9	0	8
9	23	—	14	3	1	5
10	28	—	8	12	0	8
11	25	—	12	5	2	6

資 料 : 農林水産省生産局調査(～2010. 3)。中央蚕糸協会(2010. 4～)。

備 考 : kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010. 3). Central Raw Silk Association (2010. 4～)。

Remarks : Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(9) 絹需給の推移（生糸量換算試算）

Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit: 1,000Bales of 60kg)

項目 Item 曆年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④							期末 在庫 Ending Stocks ④
	期初 在庫 Opening Stocks	生 産 Produc- tion	輸 入 Import					計 ③ Total	輸 出 Export				Domestic Demand ②-③			
			計 Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second		計 ③ Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics		二 次 The Second		
1992	460	167	85	208	26	21	60	101	308	11	—	0	7	4	297	152
1993	483	152	71	260	25	38	65	132	345	11	—	0	7	4	334	138
1994	525	138	65	322	26	37	64	195	390	10	—	0	7	3	380	135
1995	515	135	54	326	30	31	61	204	377	11	0	1	8	2	366	138
1996	507	138	43	326	35	49	62	180	374	13	0	0	9	4	361	133
1997	401	133	32	236	34	35	43	124	270	14	0	0	11	3	256	131
1998	345	131	18	196	28	23	28	117	222	13	0	0	11	2	209	123
1999	361	123	11	227	41	28	31	127	242	13	0	0	11	2	229	119
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2001	350	113	7	230	30	23	25	152	237	17	0	0	15	2	220	113
2002	366	113	7	246	32	28	24	162	261	18	0	0	16	2	243	105
2003	361	105	5	251	31	33	25	162	261	20	2	0	17	1	241	100
2004	353	100	4	249	26	30	25	168	268	30	11	0	18	1	238	85
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2006	334	84	2	248	20	32	24	172	257	22	0	1	20	1	235	77
2007	293	77	2	214	13	19	21	161	222	21	0	1	18	2	201	71
2008	276	71	2	203	15	23	20	145	213	16	0	0	15	1	197	63
2009	237	63	1	173	12	16	15	130	190	16	0	0	15	1	174	47
2010	225	47	1	177	12	16	16	133	182	16	0	0	15	1	166	43
2011	227	43	1	183	9	18	14	142	180	16	0	0	15	1	164	47
2012	230	47	1	182	10	16	14	142	184	15	0	0	14	1	169	46
2013	248	46	0	202	9	16	13	164	203	14	0	0	13	1	189	45
2014	225	45	0	180	8	15	12	145	180	14	0	0	13	1	166	45
2015	221	45	0	176	6	14	11	145	176	13	0	0	12	5	163	45
対前年比 2014/13(%)	98	100	—	98	75	93	92	100	98	93	—	—	92	500	98	100

資 料：蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報

注) 2013年から期末在庫を45千俵とする。

Source：“Silk balance and price situation monthly”, “Trade Statistics”

(10) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）

Breakdown of Silk Second Products Imports(Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit:1,000 Bales of 60kg)

項目 Item		暦年 Calendar Year	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	前年比% y/y	構成比% ratio
布 は く 製 Product made in cloth	男子用外衣類 Men's upper garments		1.8	2.8	2.2	2.4	3.1	3.4	2.4	70.6	1.7
	女子用外衣類 Women's upper garments		37.1	38.4	51.2	50.0	63.5	53.4	65.6	122.8	45.3
	うちブラウス Blouse of the inside		2.8	2.4	2.0	2.2	6.0	2.9	1.2	41.4	0.8
	男子用下着・寝具衣料 Men's underwear・bedding cloth		1.1	1.0	1.4	1.5	1.9	2.0	1.3	65.0	0.9
	女子用下着・寝具衣料 Women's underwear・bedding cloth		13.5	13.9	15.5	15.5	20.5	21.9	18.8	85.8	13.0
	ハンカチ Handkerchief		0.4	0.3	0.5	0.3	0.4	0.3	0.3	100.0	0.2
	ショール、スカーフ類 Shawl,scarves		2.5	2.2	2.2	2.3	2.2	2.0	1.9	95.0	1.3
	ネクタイ類 Ties		18.2	18.1	14.5	12.8	11.9	9.7	7.8	80.4	5.4
	メリヤス、クロセス編物 Knit.kurose knitting		15.9	17.9	18.6	22.7	26.1	20.4	17.9	87.7	12.4
	その他の洋装類 Other western clothes		22.0	21.0	20.2	19.1	18.9	17.8	15.9	89.3	11.0
洋装類計 Western clothes subtotal			112.4	115.6	126.3	126.6	148.5	130.9	131.9	100.8	91.2
和装類計 Japanese clothes subtotal			15.9	14.5	12.5	11.8	13.0	12.2	10.3	84.4	7.1
	うち絹製の帯小物等 Silk obi accessories of the inside		13.9	12.5	10.1	10.1	11.0	10.1	8.6	85.1	5.9
その他 Others			1.9	2.9	3.1	3.2	2.3	1.8	2.6	144.4	1.8
合 計 Total			130.2	133.0	141.9	141.6	163.8	144.9	144.7	99.9	100.0

資料：財務省「日本貿易月報」

注）：ラウンドにより合計が一致しないことがある。

Source:The Customs Bureau, Ministry of Finance "Trade Statistics"

Note：Total may not added up due to round off.

(11) 製糸工場の原料繭需給

Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills

(単位：生繭. t)

(Unit: Ton by fresh weight)

年 月 Year & Month	項 目 Item	総 計 Grand Total		
		受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year				
2005		806	830	589
2006		600	645	541
2007		548	581	505
2008		393	518	378
2009		308	385	313
2010		240	299	263
2011		189	162	237
2012		185	209	183
2013		142	137	188
2014		128	158	158
2013 —	1	0	11	172
	2	1	10	163
	3	0	13	150
	4	0	14	136
	5	3	13	126
	6	21	11	136
	7	38	10	164
	8	16	7	173
	9	7	8	172
	10	40	13	199
	11	4	13	190
	12	12	14	188
2014 —	1	0	11	177
	2	0	15	162
	3	0	12	150
	4	0	15	135
	5	0	14	121
	6	24	14	131
	7	29	14	146
	8	17	9	154
	9	9	11	152
	10	38	15	175
	11	11	12	174
	12	0	16	158
2015 —	1	0	13	145
	2	0	14	131
	3	0	12	119
	4	0	13	106
	5	0	11	95
	6	22	13	104
	7	29	11	122
	8	14	8	128
	9	12	37	103
	10	34	9	128
	11	5	9	124

資 料：農林水産省生産局調査(～2010. 3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010. 4～2012. 11)。

中央蚕糸協会(2012. 12～)。

備 考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。

2. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。

3. 2015年9月の消費数量は焼失分29tを含む。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010. 3).

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010. 4～2012. 11).

Central Raw Silk Association (2012. 12～).

Remarks：1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.

2. Receipts=(Ending stocks of the current month)+(put in process)-(Ending stocks of the preceding month).

(12) 製糸工場の操業状況

Activities of Reeling Mills

年 月 Year & Month	項 目 Item	運転工場数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers
			運転可能 Operable	運 転 Operating			
暦 年 Calendar Year							
	2005	10	203	126	62	269	111
	2006	9	114	94	82	266	103
	2007	8	112	93	83	266	100
	2008	7	112	90	80	266	90
	2009	7	118	71	60	259	82
	2010	7	118	58	49	247	73
	2011	7	110	57	52	252	65
	2012	7	110	39	35	243	56
	2013	7	110	38	35	249	57
	2014	7	110	38	35	261	58
2013 —	1	7	110	41	37	20	55
	2	7	110	36	33	21	55
	3	7	110	35	32	22	55
	4	7	110	36	33	22	58
	5	7	110	33	30	22	60
	6	9	110	34	31	18	67
	7	8	110	25	23	23	61
	8	6	110	16	15	20	53
	9	7	110	33	30	14	59
	10	7	110	36	33	23	59
	11	7	110	37	34	22	57
	12	7	110	38	35	22	57
2014 –	1	6	110	38	35	20	57
	2	6	110	37	34	23	57
	3	6	110	37	34	22	57
	4	7	110	37	34	23	57
	5	7	110	37	34	22	57
	6	9	110	38	35	23	62
	7	9	110	39	35	20	62
	8	6	110	26	24	23	50
	9	7	110	38	35	19	58
	10	8	110	38	35	23	62
	11	8	110	37	34	21	62
	12	7	110	38	35	22	58
2015 –	1	7	110	37	34	20	57
	2	7	110	39	35	21	57
	3	6	110	38	35	23	61
	4	6	110	38	35	23	60
	5	7	110	37	34	20	60
	6	8	110	39	35	23	60
	7	8	110	35	32	22	60
	8	6	110	26	24	20	48
	9	6	110	23	21	23	48
	10	6	110	25	23	23	53
	11	7	110	27	25	22	53

資 料：農林水産省生産局調査（～2010. 3）。中央蚕糸協会及び（社）日本生糸問屋協会（2010. 4～2012. 11）。

中央蚕糸協会及び（一財）大日本蚕糸会（2012. 12～）。

備 考：1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。

2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。

3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries（～2010. 3）.

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association（2010. 4～）.

Central Raw Silk Association（2012. 12～）

Remarks：1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.

2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.

3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

(13) 生糸在庫数量の内訳
Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

項 目 Item 年 月 Year & Month	総 計 Grand Total	一 般 在 庫 Stock in markets					農畜産業振興機構 Stock of Agriculture & Livestock Industries Corporation		
		計 Total	製糸工場 Filatures Mills	生糸市場 売買業者 Dealers	生糸市場外 売買業者 Domestic Dealers	生糸輸出 入業者 Ex and Importers	受 入 数 量 Accepts	引 渡 数 量 Deliveries	在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year									
2005	8,178	8,178	721	139	7,008	310	22,017	26,142	—
2006	9,356	9,356	446	50	8,606	254	19,974	19,974	—
2007	8,080	8,080	359	20	7,358	343	12,601	12,601	—
2008	4,584	4,584	310	15	3,536	723	1,459	1,459	—
2009	4,055	4,055	355	10	3,162	528			
2010	3,329	3,329	319	—	2,354	656			
2011	2,456	2,456	288	—	1,651	517			
2012	2,180	2,180	124	—	2,056				
2013	1,712	1,712	110	—	1,602				
2014	1,653	1,653	78	—	1,575				
2013 — 1	2,162	2,162	136	—	2,026				
2	2,282	2,282	143	—	2,139				
3	2,432	2,432	136	—	2,296				
4	1,901	1,901	137	—	1,764				
5	2,281	2,281	130	—	2,151				
6	2,266	2,266	137	—	2,129				
7	2,203	2,203	118	—	2,085				
8	2,097	2,097	110	—	1,987				
9	1,946	1,946	97	—	1,849				
10	1,907	1,907	103	—	1,804				
11	1,701	1,701	110	—	1,591				
12	1,712	1,712	110	—	1,602				
2014 — 1	1,839	1,839	116	—	1,723				
2	1,887	1,887	114	—	1,773				
3	1,991	1,991	78	—	1,913				
4	1,756	1,756	85	—	1,671				
5	1,999	1,999	99	—	1,900				
6	1,967	1,967	88	—	1,879				
7	1,877	1,877	79	—	1,798				
8	1,786	1,786	74	—	1,712				
9	1,728	1,728	63	—	1,665				
10	1,725	1,725	67	—	1,658				
11	1,642	1,642	66	—	1,576				
12	1,653	1,653	78	—	1,575				
2015 — 1	1,747	1,747	74	—	1,673				
2	1,758	1,758	77	—	1,681				
3	1,911	1,911	80	—	1,831				
4	1,418	1,418	75	—	1,343				
5	1,550	1,550	83	—	1,467				
6	1,535	1,535	88	—	1,447				
7	1,499	1,499	89	—	1,410				
8	1,543	1,543	87	—	1,456				
9	1,488	1,488	89	—	1,399				
10	1,461	1,461	87	—	1,374				
11	1,507	1,507	79	—	1,428				

資 料：農林水産省生産局調査（～2010.3）。中央蚕糸協会及び（社）日本生糸問屋協会（2010.4～2012.11）。中央蚕糸協会（2012.12～）
Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries（～2010.3）.
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association（2010.4～2012.11）.
Central Raw Silk Association（2012.12～）

(14) 蚕糸関係品目別輸入状況

Breakdown of Silk-Related Products Imports

	単位 Unit	平成27年(2015)		平成26年 (2014)	平成25年 (2013)	平成24年 (2012)	平成23年 (2011)	平成22年 (2010)	平成21年 (2009)	27年/26年 2015/14 (%)
		(12月) Dec.	(累計) Accumulated Total							
生糸・玉糸計 Raw Silk and Doupion Silk	俵 Bales of 60kg	380	6,479	8,235	9,332	10,032	9,323	12,207	12,075	78.7
絹糸 Silk Yarn	俵 Bales of 60kg	983	14,051	14,820	15,844	16,179	17,526	16,306	16,647	94.8
野蚕糸 Wild Raw Silk	俵 Bales of 60kg	0	33	48	169	81	62	82	149	68.8
繭 Cocoon	kg	0	6,800	10,200	8,300	6,250	4,050	13,158	9,800	66.7
くず繭 Waste Cocoon	kg	200	8,860	11,728	13,314	6,457	10,885	9,395	33,450	75.5
その他の絹くず Other Silk Waste	kg	165	89,984	101,655	92,024	107,023	98,732	134,852	125,999	88.5
絹のくず計 Silk Waste Total	kg	365	98,844	113,383	105,338	107,022	109,617	144,247	159,449	87.2
絹紡糸 Spun silk yarn from silk waste other than noil	kg	22,659	343,101	453,450	438,786	482,523	394,920	451,219	335,710	75.7
絹紡細糸 Spun silk yarn from noil silk	kg	9,218	148,796	141,707	152,749	140,188	118,404	104,374	97,554	105.0
絹織物 Silk Fabrics	m ²	407,150	5,468,177	6,097,501	6,661,585	7,218,094	8,422,094	8,930,391	9,027,911	89.7

資料：財務省関税局

備考：絹ノイルと真綿の統計は、平成21年1月より廃止された。

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance

(15) 生糸の原産国別輸入数量
Raw Silk Imports

(単位 : 60 k g 俵)
(Unit : Bales of 60kg)

国 名 Country	計 Total	中国 China	ブラジル Brazil	ベトナム Vietnam	タイ Thailand	その他 Others
年 月 Year & Month						
暦 年 Calendar Year						
2007	12,858	8,804	3,848	-	206	-
2008	15,242 (137)	10,969 (102)	4,152 (35)	-	122	-
2009	12,085 (72)	8,170 (51)	3,855 (21)	-	41	-
2010	12,209 (65)	8,411 (40)	3,706 (25)	-	32	-
2011	9,323 (63)	7,170 (32)	2,136 (30)	-	5	-
2012	10,032 (49)	8,628 (36)	1,403 (13)	-	-	-
2013	9,332 (98)	8,047 (59)	1,275 (34)	10 (5)	-	-
2014	8,241 (90)	7,001 (75)	1,143 (15)	70	7	20
2015	6,479 (58)	5,569 (49)	887 (9)	20	2	-
2013 - 1	958 (10)	918 (10)	40	-	-	-
2	906 (9)	698 (7)	207 (2)	-	-	-
3	1,148 (17)	1,083 (17)	65	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-
5	1,314 (25)	1,031 (15)	278 (10)	5	-	-
6	925	841	84	-	-	-
7	611 (2)	539	72 (2)	-	-	-
8	758 (15)	577	176 (10)	5 (5)	-	-
9	566	546	20	-	-	-
10	855 (15)	689 (10)	166 (5)	-	-	-
11	491	416	75	-	-	-
12	800 (6)	708	92 (6)	-	-	-
2014 - 1	776	687	88	-	1	-
2	591 (2)	465 (2)	107	-	-	20
3	1,055 (13)	973 (13)	76	5	-	-
4	270 (4)	169 (4)	100	-	2	-
5	927 (25)	795 (20)	132 (5)	-	-	-
6	869 (17)	683 (7)	133 (10)	50	2	-
7	599	522	75	-	2	-
8	548	459	79	10	-	-
9	591	480	111	-	-	-
10	748 (14)	660 (14)	83	5	-	-
11	667 (5)	564 (5)	103	-	-	-
12	600 (10)	544 (10)	56	-	-	-
2015 - 1	722	510	212	-	-	-
2	614 (2)	589 (2)	15	10	-	-
3	802 (2)	769	33 (2)	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-
5	822 (3)	689 (3)	133	-	-	-
6	628 (23)	572 (23)	47	10	-	-
7	572 (15)	534 (10)	36 (5)	-	2	-
8	467 (6)	417 (6)	50	-	-	-
9	479	364	115	-	-	-
10	462 (6)	366 (6)	96	-	-	-
11	530 (2)	444	86 (2)	-	-	-
12	380	315	65	-	-	-

資 料 : 財務省関税局調査

備 考 : 1. kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。
2. () 書きは、玉糸の輸入数量で内数である。

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : 1. Country volume may not add up the total volume due to round off.
2. Figures in parenthesis indicate the break down for doupion silk imports.

(16) 絹糸の原産国別輸入数量
Silk Yarn Imports

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

国名 Country	計 Total	韓 国 S Korea	中 国 China	ベトナム Vietnam	イタリア Italy	アメリカ USA	ブラジル Brazil	その他 Others
年月 Year & Month								
暦 年 Calendar Year								
2008	22,636	143	12,513	6,865	12	—	3,204	12
2009	16,647	—	9,656	5,096	12	—	1,742	137
2010	16,306	—	9,675	4,161	16	—	1,716	205
2011	17,526	—	10,384	5,129	7	—	1,131	212
2012	16,179	—	9,924	4,908	15	—	1,109	223
2013	15,844	—	9,148	5,783	33	—	878	3
2014	14,820	—	8,190	5,733	8	—	867	22
2015	14,051	—	7,928	5,586	4	0	531	2
2013 — 1	1,744	—	1,080	612	—	—	52	—
2	1,138	—	616	429	—	—	93	—
3	1,337	—	940	342	5	—	50	—
4	1,552	—	880	574	—	—	95	3
5	1,629	—	1,012	545	1	—	71	—
6	1,175	—	660	446	3	—	67	—
7	1,326	—	729	555	4	—	38	—
8	1,288	—	750	419	1	—	118	—
9	918	—	489	413	1	—	15	—
10	1,354	—	682	541	1	—	131	—
11	1,351	—	676	576	18	—	81	—
12	1,033	—	635	331	1	—	66	—
2014 — 1	1,579	—	820	692	—	—	67	—
2	677	—	313	271	1	—	91	—
3	1,338	—	922	371	—	—	45	—
4	1,392	—	744	556	—	—	90	2
5	1,332	—	806	456	—	—	69	—
6	1,355	—	813	471	1	—	71	—
7	1,311	—	720	531	1	—	59	—
8	1,203	—	630	498	—	—	56	19
9	1,411	—	762	560	3	—	86	—
10	1,121	—	433	600	2	—	86	—
11	1,008	—	582	326	1	—	99	—
12	1,094	—	647	402	1	—	45	—
2015 — 1	1,422	—	788	529	—	—	105	—
2	1,045	—	573	461	0	0	11	—
3	693	—	405	268	—	0	21	—
4	1,165	—	745	332	—	—	87	1
5	1,591	—	951	610	—	—	31	—
6	1,293	—	679	564	1	0	48	—
7	1,283	—	697	568	—	—	17	—
8	1,238	—	732	490	—	—	15	1
9	1,152	—	692	401	—	—	59	—
10	1,161	—	528	594	—	—	39	—
11	1,024	—	536	431	1	—	56	0
12	983	—	601	339	2	—	41	—

資 料：財務省関税局調査。

備 考：kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : Country volume may not add up the total volume due to round off.

(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価

Raw Silk and Silk Yarn Imports in Major Countries

単位：俵、円/K g

Unit: bale of 60kg, yen/kg

項 目 Item	輸入生糸（通関ベース） Raw Silk Imprt				輸入絹糸（通関ベース） Silk Yarn Import					
	中国 China		ブラジル Brazil		中国 China		ブラジル Brazil		ベトナム Vietnam	
	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price
年 月 Year & Month										
暦 年 Calendar Year										
1999	27,446	2,439	14,602	3,026	11,729	2,979	6,069	3,706	2,886	3,277
2000	30,147	2,655	11,772	3,340	13,769	2,789	5,712	3,543	6,255	3,168
2001	22,018	2,824	8,339	3,713	10,303	3,149	5,130	3,790	6,607	3,688
2002	24,521	2,241	7,909	3,192	13,256	2,556	6,097	3,299	7,122	3,053
2003	24,074	1,988	7,260	2,436	17,408	2,182	6,223	2,740	7,167	2,499
2004	18,016	2,435	7,387	3,631	13,280	2,576	7,444	3,038	7,076	2,624
2005	17,327	2,638	5,308	2,903	18,977	3,105	5,767	3,301	7,550	2,933
2006	14,739	3,736	6,181	4,188	17,019	4,172	5,675	4,543	8,706	3,643
2007	8,793	3,321	3,846	3,778	11,726	3,586	2,930	4,305	4,744	3,972
2008	12,190	3,104	4,153	3,490	12,627	3,361	3,204	3,989	6,865	3,220
2009	8,120	2,740	3,965	3,059	9,656	2,840	1,742	3,611	5,116	3,034
2010	8,411	3,667	3,706	3,773	9,675	3,730	1,706	4,161	4,606	3,411
2011	7,170	4,469	2,136	5,492	10,384	4,707	1,722	5,398	5,429	4,402
2012	8,628	4,293	1,404	5,290	9,924	4,383	1,110	6,078	4,908	4,493
2013	8,047	5,954	1,275	7,420	9,148	6,150	878	8,409	5,783	6,091
2014	6,925	6,449	1,127	8,362	8,190	6,609	867	9,480	5,743	6,794
2015	5,520	6,803	879	8,199	7,928	6,908	531	9,261	5,586	7,283
2014 - 1	687	6,560	88	8,429	820	6,758	67	9,549	692	6,812
2	463	6,575	107	8,487	313	6,790	91	9,402	271	6,591
3	961	6,433	76	8,230	922	6,543	45	9,366	371	6,977
4	164	6,583	100	8,283	744	6,658	90	9,330	556	6,682
5	775	6,364	127	8,291	806	6,696	69	9,311	466	6,823
6	676	6,392	124	8,224	813	6,336	71	9,296	471	6,756
7	522	6,237	75	8,205	720	6,341	59	9,251	531	6,625
8	459	6,223	79	8,313	630	6,324	56	9,299	498	6,592
9	480	6,264	111	8,302	762	6,471	86	9,336	560	6,733
10	646	6,407	83	8,485	433	6,778	86	9,665	600	6,857
11	559	6,496	103	8,509	582	6,667	99	9,764	326	6,973
12	534	6,944	56	8,760	647	7,173	45	10,322	402	7,220
2015 1	510	6,969	212	8,872	788	7,186	105	10,172	529	7,406
2	587	6,961	15	9,151	573	6,820	11	10,531	461	7,339
3	769	6,896	31	8,760	405	7,053	21	9,943	268	7,931
4	-	-	-	-	745	7,049	87	9,508	332	7,773
5	686	6,836	133	8,493	951	6,794	31	9,392	610	7,325
6	549	6,983	47	8,388	679	7,044	48	9,397	564	7,224
7	524	6,801	31	8,836	697	7,053	17	9,483	568	7,673
8	412	7,056	50	8,072	732	6,853	15	9,407	490	7,285
9	364	6,760	115	7,593	692	6,854	59	8,577	401	7,007
10	360	6,381	96	7,553	528	6,625	39	8,424	594	6,948
11	444	6,338	84	7,827	536	6,825	56	8,506	431	6,872
12	315	6,496	65	7,091	601	6,665	41	8,132	339	6,821

資 料：財務省調査。通関統計による、単価はC I F 価格である。

Source：The customs Bureau, Ministry of Finance

Remarks：A unit price is CIF price.

(18) 絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics

(単位 : 1,000㎡)
(Unit : 1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics							
		広 巾 織 物 Double Width				小 巾 織 物 Single Width			その他の 後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crape	先 練 (先染) Dyed Yarn	
年 月 Year & Month									
暦 年 Calendar Year									
2003	23,935	8,374	3,801	2,464	2,109	11,509	7,747	3,762	4,052
2004	21,895	7,510	3,511	2,182	1,817	10,875	7,431	3,444	3,510
2005	19,816	6,669	2,965	1,903	1,801	10,298	6,980	3,318	2,849
2006	18,507	6,105	2,732	1,727	1,646	9,311	5,966	3,345	3,090
2007	15,466	5,215	2,276	1,547	1,392	7,709	4,671	3,038	2,542
2008	14,043	4,887	2,061	1,419	1,407	6,929	4,263	2,666	2,228
2009	9,955	3,239	1,254	1,045	939	5,288	3,441	1,847	1,428
2010	3,611	1,379	871	66	442	1,538	630	908	694
2011	3,152	1,438	786	62	591	1,003	562	441	711
2012	2,912	1,357	738	54	565	879	429	449	677
2013	2,940	1,428	813	46	569	809	397	412	703
2014	2,734	1,441	803	40	599	665	298	367	628
2014 — 1	226	120	67	3	50	51	23	28	55
2	236	121	68	3	50	57	25	32	58
3	240	125	75	4	46	57	26	31	58
4	244	125	73	4	48	61	29	32	58
5	249	134	70	4	61	57	24	33	57
6	252	137	72	4	61	57	25	32	58
7	238	125	67	3	55	55	24	31	57
8	195	104	63	3	38	47	20	27	43
9	207	111	66	3	43	53	24	29	43
10	222	112	63	3	45	58	27	31	52
11	212	112	61	3	48	56	26	31	44
12	214	113	57	3	53	56	26	30	45
2015 — 1	193	99	60	3	36	53	22	30	42
2	183	86	57	2	27	54	25	29	43
3	193	94	60	3	31	57	27	30	41
4	209	110	57	2	51	58	29	30	40
5	183	99	52	3	43	51	22	29	33
6	218	121	57	3	61	55	24	31	42
7	207	111	53	3	54	56	23	33	40
8	161	84	53	3	28	45	20	25	32
9	184	99	53	3	43	50	23	27	36
10	198	104	55	3	45	54	24	30	40
11	194	106	52	3	52	53	23	30	35

資 料 : (一社) 日本絹人織織物工業会。

備 考 : 1. 絹紡と交織を含む。単位以下四捨五入。

2. 2009年から調査対象が変更された。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver' s Association.

Remarks : Spun and mixed fabrics included .

Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

項 目 Item 年 月 Year & Month	絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹 後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長 浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西 陣 Nishijin (帯) (Sash)	
	数 量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
暦 年 Calendar Year								
2004	21,895	91.7	1,119,897	95.6	189,426	90.8	780,082	84.6
2005	19,816	90.5	1,058,571	94.5	170,061	92.6	691,780	88.7
2006	18,504	93.4	912,027	86.2	132,448	78.1	598,040	86.4
2007	15,466	83.6	712,560	78.1	97,204	73.0	977,719	163.5
2008	14,043	90.8	656,919	92.2	88,401	90.8	867,490	88.7
2009	9,955	70.9	503,365	76.6	73,681	84.0	746,538	86.1
2010	3,611	36.3	515,721	102.5	84,023	110.0	859,244	115.1
2011	3,152	87.3	475,989	92.3	70,803	84.3	692,943	80.6
2012	2,912	92.4	451,503	94.9	62,910	88.9	645,679	92.9
2013	2,940	101.0	433,451	96.0	55,792	88.7	630,586	97.7
2014	2,734	93.0	400,192	92.3	53,174	95.3	600,917	95.3
2015			351,309	87.8	41,893	78.8		
2014 — 1	226	94.6	24,533	98.0	4,530	101.7	50,063	91.7
2	236	97.5	38,740	92.4	4,396	94.9	54,843	105.0
3	240	96.8	33,931	91.4	4,903	113.9	62,781	112.6
4	244	94.6	34,069	87.6	4,841	88.1	53,582	86.7
5	249	101.2	33,576	96.2	4,241	88.5	50,515	84.8
6	252	98.4	36,794	90.0	4,980	106.1	47,469	96.3
7	238	90.5	33,951	92.5	4,374	87.1	47,632	103.3
8	195	93.3	30,098	98.0	3,355	94.1	42,905	99.4
9	207	95.0	34,688	88.8	4,908	98.7	50,566	108.9
10	222	85.7	31,587	98.2	4,417	89.1	50,476	94.3
11	212	84.5	35,611	90.5	4,179	100.2	44,217	77.8
12	214	85.6	32,614	88.9	4,050	85.7	45,868	88.6
2015 — 1	193	85.4	23,759	96.8	3,624	80.0	47,602	95.1
2	183	77.5	34,789	89.8	3,895	88.6	43,469	79.3
3	193	80.4	31,168	91.9	4,472	91.2	49,386	78.7
4	209	85.7	31,316	91.9	4,117	85.0	50,797	94.8
5	183	73.5	29,814	88.8	3,105	73.2	43,367	85.8
6	218	86.5	31,254	84.9	4,011	80.5	41,884	88.2
7	207	87.0	28,297	83.3	3,545	81.0	45,889	96.3
8	161	82.6	27,192	90.3	3,122	93.1	34,886	81.3
9	184	88.9	28,540	82.3	3,270	66.6	43,982	87.0
10	198	89.2	28,745	91.0	2,808	63.6	44,298	87.8
11	194	91.5	30,007	84.3	3,138	75.1	37,921	85.8
12			26,428	81.0	2,786	68.8		
2016 — 1			22,012	92.6	2,707	74.7		

資 料：絹織物生産数量は(一社)日本絹人織織物工業会調査。主要3産地の生産量、出荷数量は各産地組合の発表による。

備 考：1. 2006年1月以降の西陣の帯生産数量には、帯裏地等を含む。

2. 2009年から調査対象が変更された。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver's Association and Japan Raw Silk Dealer's Association.

Remarks : Since Jan. 2006, sash linings are included in sash production.

(20) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況

Consumption Expenditures of Total Households

項目 Item 年月 Year & Month	消費支出総額 Total		被服及び履物 Clothing & footwear		和服 Japanese clothing		洋服 Clothing		シャツ・セーター Shirts & sweaters		下着類 Underwear	
	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)
暦年 Calendar Year												
2006	294,943	▲ 2.0	12,776	▲ 1.0	342	▲ 7.8	5,007	▲ 2.6	2,694	▲ 0.9	1,184	3.9
2007	297,782	1.0	12,933	1.2	345	0.9	5,066	1.2	2,727	1.2	1,164	▲ 1.7
2008	296,932	▲ 0.3	12,523	▲ 3.2	299	▲ 13.3	4,890	▲ 3.5	2,598	▲ 4.7	1,133	▲ 2.7
2009	291,737	▲ 1.7	11,994	▲ 4.2	261	▲ 12.7	4,622	▲ 5.5	2,468	▲ 5.0	1,098	▲ 3.1
2010	290,244	▲ 0.5	11,499	▲ 4.1	245	▲ 6.1	4,459	▲ 3.5	2,353	▲ 4.7	1,069	▲ 2.6
2011	282,966	▲ 2.5	11,382	▲ 1.0	270	10.2	4,273	▲ 4.2	2,403	2.1	1,100	2.9
2012	286,169	1.1	11,453	0.6	246	▲ 8.9	4,305	0.7	2,410	0.3	1,087	▲ 1.2
2013	290,455	1.5	11,756	2.6	177	▲ 28.3	4,583	6.4	2,504	3.9	1,066	▲ 2.0
2014	291,194	0.3	11,983	1.9	227	28.3	4,617	0.7	2,518	0.6	1,097	3.0
2015	287,374	▲ 1.3	11,363	▲ 5.2	165	▲ 27.0	4,451	▲ 3.6	2,389	▲ 5.1	994	▲ 9.4
2013 - 1	288,934	2.1	12,301	▲ 6.4	28	▲ 89.8	5,208	▲ 6.0	2,592	▲ 3.3	1,110	▲ 1.4
2	268,099	0.1	9,117	3.3	194	▲ 49.2	4,053	9.5	1,647	7.6	738	0.8
3	316,166	4.1	13,271	9.1	138	▲ 7.3	6,177	11.2	2,357	16.1	848	▲ 3.2
4	304,382	0.8	11,762	0.6	134	41.1	4,557	3.6	2,512	3.2	868	▲ 7.1
5	282,366	▲ 1.9	12,400	7.0	231	86.3	4,077	7.3	2,956	6.7	1,142	6.5
6	269,418	▲ 0.1	12,139	8.3	419	147.9	4,088	12.7	2,933	6.3	1,130	▲ 3.3
7	286,098	1.0	11,876	▲ 0.4	194	▲ 18.8	4,091	4.3	3,174	0.4	1,224	▲ 4.8
8	284,646	▲ 0.5	8,829	2.3	71	▲ 81.4	2,857	6.4	2,193	6.4	984	2.5
9	280,692	5.2	9,180	8.8	182	▲ 3.2	3,457	19.2	1,936	3.2	807	▲ 3.6
10	290,676	2.3	12,483	2.4	246	0.8	5,123	10.5	2,595	1.4	1,043	▲ 7.6
11	279,546	2.1	13,741	▲ 0.5	94	▲ 82.8	5,663	5.0	2,593	2.0	1,404	1.6
12	334,433	2.7	13,974	1.2	187	8.7	5,639	1.2	2,554	3.2	1,490	▲ 2.4
2014 - 1	297,070	2.8	14,736	19.8	632	2,157.1	6,424	23.3	2,868	10.6	1,100	▲ 0.9
2	266,610	▲ 0.6	8,384	▲ 8.0	110	▲ 43.3	3,573	▲ 11.8	1,484	▲ 9.9	665	▲ 9.9
3	345,443	9.3	14,955	12.7	168	21.7	6,719	8.8	2,534	7.5	1,166	37.5
4	302,141	▲ 0.7	11,308	▲ 3.9	79	▲ 41.0	4,330	▲ 5.0	2,475	▲ 1.5	866	▲ 0.2
5	271,411	▲ 3.9	12,145	▲ 2.1	238	3.0	3,923	▲ 3.8	2,913	▲ 1.5	1,133	▲ 0.8
6	272,791	1.3	12,141	0.0	322	▲ 23.2	4,130	1.0	2,785	▲ 5.0	1,184	4.8
7	280,293	▲ 2.0	11,262	▲ 5.2	352	81.4	3,658	▲ 10.6	2,969	▲ 6.5	1,186	▲ 3.1
8	282,124	▲ 0.9	9,307	5.4	226	218.3	3,105	8.7	2,147	▲ 2.1	981	▲ 0.3
9	275,226	▲ 1.9	9,178	▲ 0.0	169	▲ 7.1	3,197	▲ 7.5	2,153	11.2	809	0.2
10	288,579	▲ 0.7	11,988	▲ 4.0	221	▲ 10.2	4,649	▲ 9.3	2,569	▲ 1.0	1,053	1.0
11	280,271	0.3	14,110	2.7	119	26.6	5,959	5.2	2,748	6.0	1,324	▲ 5.7
12	332,363	▲ 0.6	14,286	2.2	82	▲ 56.1	5,734	1.7	2,574	0.8	1,702	14.2
2015 - 1	289,847	▲ 2.4	12,881	▲ 12.6	188	▲ 70.3	5,921	▲ 7.8	2,332	▲ 18.7	1,102	0.2
2	265,632	▲ 0.4	8,788	4.8	117	6.4	3,885	8.7	1,711	15.3	610	▲ 8.3
3	317,579	▲ 8.1	13,185	▲ 11.8	104	▲ 38.1	6,179	▲ 8.0	2,341	▲ 7.6	810	▲ 30.5
4	300,480	▲ 0.5	12,493	10.5	155	96.2	4,759	9.9	2,532	2.3	881	1.7
5	286,433	5.5	12,499	2.9	101	▲ 57.6	4,191	6.8	2,975	2.1	1,127	▲ 0.5
6	268,652	▲ 1.5	10,737	▲ 11.6	155	▲ 51.9	3,603	▲ 12.8	2,750	▲ 1.3	987	▲ 16.6
7	280,471	0.1	11,552	2.6	144	▲ 59.1	4,135	13.0	2,923	▲ 1.5	1,103	▲ 7.0
8	291,156	3.2	8,996	▲ 3.3	179	▲ 20.8	2,890	▲ 6.9	2,058	▲ 4.1	977	▲ 0.4
9	274,309	▲ 0.3	9,269	1.0	288	70.4	3,310	3.5	2,082	▲ 3.3	805	▲ 0.5
10	282,401	▲ 2.1	11,468	▲ 4.3	179	▲ 19.0	4,481	▲ 3.6	2,459	▲ 4.3	1,008	▲ 4.3
11	273,268	▲ 2.5	12,390	▲ 12.2	351	195.0	5,116	▲ 14.1	2,291	▲ 16.6	1,160	▲ 12.4
12	318,254	▲ 4.2	12,099	▲ 15.3	22	▲ 73.2	4,938	▲ 13.9	2,214	▲ 14.0	1,356	▲ 20.3

資料:総務省統計局「家計調査報告」。2人以上で構成される8,000世帯を集計。

備考:「被服及び履物」は右に並ぶ内訳4項目以外の費目も含む。年数値は月平均。

Source:Family Income and Expenditure Survey by Statistics Bureau, MIC.

Added up 8,000 two-or-more-person households.

Remarks:Clothing&footwear includes japanese clothing ,clothing ,shirts&sweaters and other items.

Year value is mean of the each month

－資料・海外－

(1)世界主要国の家蚕繭生産数量

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2005年	2006年	2007年
		トン	トン	トン
日本	Japan	626	505	433
中国	China	621,461	739,715	779,261
インド	India	126,261	135,462	132,038
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	7,146	8,051	8,617
タイ	Thailand	10,650	10,100	1,785
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	20,000	20,000
イラン	Iran	2,543	2,104	1,665
トルコ	Turkey	170	350	130
インドネシア	Indonesia	691	339	470
ブルガリア	Bulgaria	42	65	55
ギリシャ	Greece	70	100	104
フィリピン	Philippines	14.4	16	9
シリア	Syria	5.5	3	2.5
主要国の計	Total	810,680	937,810	965,570

区 分		2008年	2009年	2010年
		トン	トン	トン
日本	Japan	382	327	265
中国	China	683,387	575,299	617,915
インド	India	124,834	131,661	131,924
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	6,266	4,835	4,439
タイ	Thailand	7,700	4,655	4,655
ウズベキスタン	Uzbekistan	25,760	25,896	20,000
イラン	Iran	1,185	1,185	1,185
トルコ	Turkey	126	140	140
インドネシア	Indonesia	273	133	161
ブルガリア	Bulgaria	48	51	75
ギリシャ	Greece	100	100	100
フィリピン	Philippines	6	4	4
シリア	Syria	3	4	4
主要国の計	Total	871,070	765,290	801,867

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSED)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会 (ISC)の統計値を使用した。

注2 シェアの大きいベトナムは、2005年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSED).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2004) is not reported, that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

(2)世界主要国の家蚕生糸生産数量

Domesticated Raw Silk Production in Major Countries

区 分		2009年		2010年		2011年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	69	1,152	53	882	44	731
中国	China	92,455	1,540,917	95,778	1,596,300	103,849	1,730,817
インド	India	16,322	272,033	16,360	272,667	23,060	384,333
ベトナム	Vietnam	550	9,167	2,250	37,500	500	8,333
ブラジル	Brazil	811	13,517	770	12,833	558	9,300
タイ	Thailand	665	11,083	665	11,083	655	10,917
ウズベキスタン	Uzbekistan	780	13,000	940	15,667	940	15,667
イラン	Iran	82	1,367	75	1,250	120	2,000
トルコ	Turkey	20	333	18	300	22	367
インドネシア	Indonesia	19	317	20	333	20	333
ブルガリア	Bulgaria	9.0	150	9.0	150	6.0	100
ギリシャ	Greece	4	67	4	67	4	67
フィリピン	Philippines	1	17	1	17	1	17
シリア	Syria	0.6	10	0.6	10	0.5	8
主要国の計	Total	111,788	1,863,129	116,944	1,949,059	129,779	2,162,989

区 分		2012年		2013年		2014年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	30	506	25	409	28	466
中国	China	126,000	2,100,000	130,000	2,166,667	146,000	2,433,333
インド	India	23,679	394,650	26,480	441,333	28,708	478,467
ベトナム	Vietnam	450	7,500	475	7,917	420	7,000
ブラジル	Brazil	440	7,333	440	7,333	433	7,217
タイ	Thailand	655	10,917	680	11,333	692	11,533
ウズベキスタン	Uzbekistan	940	15,667	980	16,333	1,100	18,333
イラン	Iran	123	2,050	123	2,050	110	1,833
トルコ	Turkey	22	367	25	417	32	533
インドネシア	Indonesia	20	333	16	267	10	167
ブルガリア	Bulgaria	9.0	150	9	150	8	133
ギリシャ	Greece	4	67	4	67	4	67
フィリピン	Philippines	0.9	15	1.0	17	1.1	18
シリア	Syria	0.5	8	0.7	12	0.5	8
主要国の計	Total	152,374	2,539,563	159,258	2,654,304	177,547	2,959,109

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド纖維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。

注2 シェアの大きいベトナムは、2005年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2004) is not reported, that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

(3)中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量

Domesticated Cocoon Production, Raw Silk Production, and Number of Filatures in China

区分 省 Province		家蚕繭生産量 Domesticated Cocoon Production (トン、%)(MT, %)				生糸生産量 Raw silk Production (トン、%)(MT, %)			
		2009	2010	2011	対前年比 2011/10	2009	2010	2011	対前年比 2011/10
山	西 Shanxi	4,046	5,894	6,622	112	266	182	64	35
河	北 Hebei	1,200	1,500	1,500	100	—	—	—	—
江	蘇 Jiangsu	73,175	77,399	70,000	90	17,800	16,000	19,506	122
浙	江 Zhejiang	45,600	57,000	60,000	105	15,000	14,436	15,162	105
安	徽 Anhui	24,800	25,000	25,000	100	5,200	6,438	5,487	85
江	西 Jiangxi	7,602	7,000	7,700	110	2,900	3,591	0	—
山	東 Shandong	23,900	22,000	20,800	95	5,800	7,510	3,723	50
河	南 Henan	10,101	7,500	8,340	111	2,100	103	0	—
湖	北 Hubei	17,150	10,600	6,612	62	555	446	437	98
湖	南 Hunan	3,182	2,452	2,596	106	104	197	2,170	1,102
広	東 Guangdong	53,321	39,300	43,600	111	1,722	1,711	1,183	69
広	西 Guangxi	172,900	214,000	231,000	108	16,237	18,164	17,551	97
重	慶 Chongqing	17,311	17,200	18,500	108	4,200	4,000	3,811	95
四	川 Sichuan	70,000	71,000	74,000	104	14,900	14,900	28,074	188
貴	州 Guizhou	2,751	1,460	1,370	94	105	134	182	136
雲	南 Yunnan	30,230	40,000	42,700	107	2,237	2,138	2,108	99
陝	西 Shaanxi	17,200	17,600	18,040	103	3,263	3,664	4,391	120
甘	粛 Gansu	253	304	271	89	—	—	0	—
寧	夏 Ningxia	126	126	130	103	—	—	0	—
新	疆 Xinjiang	450	580	210	36	—	—	0	—
内	蒙 古 Inner Mongolia	—	—	—	—	66	64	0	—
合	計 Total	575,299	617,915	638,991	103	92,455	95,778	103,849	108

資料：中国絲綢協会資料による

注：合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移

Domesticated Cocoon Production in China

(単位：万トン) (Unit: 10,000ton)

地域	Area	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	前年比 11/10(%)
北 京	Beijing														
天 津	Tianjin														
河 北	Hebei	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1				0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	100
山 西	Shanxi	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.4	0.6	0.6	0.6	0.4	0.6	0.7	112
内 蒙 古	Inner Mongolia														
遼 寧	Liaoning														
吉 林	Jilin														
黒 龍 江	Heilongjiang														
上 海	Shanghai						0.0	0.0							
江 蘇	Jiangsu	8.2	9.0	10.1	11.9	10.7	11.1	10.1	11.8	10.4	9.5	7.3	7.7	7.0	90
浙 江	Zhejiang	9.4	9.5	11.0	9.9	7.9	7.6	7.5	8.5	8.4	6.4	4.6	5.7	6.0	105
安 徽	Anhui	2.1	2.5	2.7	2.8	2.6	2.7	3.4	3.8	3.8	3.3	2.5	2.5	2.5	100
福 建	Fujian														
江 西	Jiangxi	0.3	0.3	0.5	0.7	0.8	1.0	1.1	1.2	1.2	1.0	0.8	0.7	0.8	110
山 東	Shandong	4.2	5.3	6.9	6.9	6.7	3.5	3.7	4.0	4.0	3.5	2.4	2.2	2.1	95
河 南	Henan	1.2	1.3	1.5	1.7	1.1	0.7	0.9	1.3	1.4	1.2	1.0	0.8	0.8	111
湖 北	Hubei	1.4	1.2	1.2	1.3	1.2	1.1	1.4	1.6	1.6	2.1	1.7	1.1	0.7	62
湖 南	Hunan			0.1	0.1	0.2	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.2	0.3	106
広 東	Guangdong	2.3	3.1	4.5	5.3	5.2	2.7	3.4	6.9	8.1	7.1	5.3	3.9	4.4	111
広 西	Guangxi	1.9	3.0	5.6	7.4	8.7	9.2	14.8	18.5	20.5	17.1	17.3	21.4	23.1	108
海 南	Hainan														
重 慶	Chongqing	2.4	3.0	3.2	3.4	2.8	2.6	3.1	2.4	2.5	2.2	1.7	1.7	1.9	108
四 川	Sichuan	8.1	8.7	9.2	9.3	9.3	8.3	7.8	7.8	8.4	6.9	7.0	7.1	7.4	104
貴 州	Guizhou	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	0.2	0.4	0.3	0.1	0.1	94
雲 南	Yunnan	0.7	0.7	0.9	1.1	1.3	1.9	2.0	3.1	3.7	4.0	3.0	4.0	4.3	107
チベット	Tibet														
陝 西	Shaanxi	1.5	1.5	1.6	1.7	1.9	1.6	2.0	1.8	2.5	2.4	1.7	1.8	1.8	103
甘 肅	Gansu						0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	89
青 海	Qinghai														
寧 夏	Ningxia						0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	103
新 疆	Xinjiang	0.3	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	36
合 計	Total	44.7	50.1	60.2	64.5	61.1	55.0	62.2	73.9	77.9	68.3	57.5	61.8	63.9	103

資料：2003年までは中国国家统计局「中国統計年鑑」、2004年以降は中国絲綢協会資料による。

合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: Until 2003, "China Statistical Yearbook" National Bureau of Statistics of China

Since 2004, China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

(5) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格
Spot Price of Various Silk Goods

2015年12月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)		94.34 ~ 109.68	1,792 ~ 2,084
2	玉繭(double cocoon)		89.78 ~ 96.38	1,706 ~ 1,831
3	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	92.66 ~ 101.64	1,761 ~ 1,931
4	ビス(bisu)		85.02 ~ 90.32	1,615 ~ 1,716
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	295.26 ~ 300.40	5,610 ~ 5,708
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	296.30 ~ 300.96	5,630 ~ 5,718
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	288.00 ~ 293.80	5,472 ~ 5,582
8	玉糸(doupion silk)	110d	292.46 ~ 300.32	5,557 ~ 5,706
9	土糸(native silk)	110d	278.26 ~ 286.28	5,287 ~ 5,439
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
10	羽二重(habutae)	45吋(inch)10匁(mom)	28.53 ~ 30.53	542 ~ 580
11	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	24.40 ~ 26.73	464 ~ 508
12	シャンタン(shantung)	45吋(inch)16匁(mom)	41.00 ~ 45.00	779 ~ 855
13	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	45.96 ~ 48.24	873 ~ 917
14	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	39.33 ~ 41.18	747 ~ 782
15	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	32.09 ~ 33.66	610 ~ 640

注:1元=19円

2016年1月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)		94.00 ~ 109.55	1,692 ~ 1,972
2	玉繭(double cocoon)		90.60 ~ 99.15	1,631 ~ 1,785
3	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	92.85 ~ 105.78	1,671 ~ 1,904
4	ビス(bisu)		84.15 ~ 89.70	1,515 ~ 1,615
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	297.80 ~ 302.60	5,360 ~ 5,447
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	298.35 ~ 303.33	5,370 ~ 5,460
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	288.00 ~ 293.00	5,184 ~ 5,274
8	玉糸(doupion silk)	110d	293.48 ~ 302.30	5,283 ~ 5,441
9	土糸(native silk)	110d	276.00 ~ 284.80	4,968 ~ 5,126
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
10	羽二重(habutae)	45吋(inch)10匁(mom)	28.25 ~ 30.17	508 ~ 543
11	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	24.14 ~ 26.62	435 ~ 479
12	シャンタン(shantung)	45吋(inch)16匁(mom)	41.00 ~ 45.00	738 ~ 810
13	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	45.90 ~ 48.52	826 ~ 873
14	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	39.36 ~ 41.46	708 ~ 746
15	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	32.48 ~ 34.15	585 ~ 615

注:1元=18円

資料:中国繭絲綢交易市場(浙江省、嘉興)発表

Source:China Silk Exchange(Zhejiang Sheng Jia Xing)

(6) 中国企業別従業員年間賃金総額及び対前年指数

Total Wage Bill of Employed Persons in Urban Units and Related Indices

年次 Year	賃金総額 (億元) Total Wage Bill (100million yuan)				対前年指数 Indices (preceding year=100)			
	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective -owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective -owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership
1995年	8,055.8	6,172.6	1,210.6	672.6	119.0	117.4	115.6	142.2
1997年	9,602.4	7,323.9	1,283.9	994.5	103.8	106.2	101.1	124.0
1998年	9,540.2	6,934.6	1,054.9	1,550.7	99.4	94.7	82.2	155.9
1999年	10,155.9	7,289.9	995.8	1,870.1	106.5	105.1	94.4	120.6
2000年	10,954.7	7,744.9	950.7	2,259.1	107.9	106.2	95.5	120.8
2001年	12,205.4	8,515.2	898.5	2,791.7	111.4	109.9	94.5	123.6
2002年	13,638.1	9,138.0	863.9	3,636.2	111.7	107.3	96.1	130.3
2003年	15,329.6	9,911.9	867.1	4,550.6	112.4	108.5	100.4	125.1
2004年	17,615.0	11,038.2	876.2	5,700.6	114.9	111.4	101.0	125.3
2005年	20,627.1	12,291.7	906.4	7,429.0	117.1	111.4	103.4	130.3
2006年	24,262.3	13,920.6	983.8	9,357.9	117.6	113.3	108.5	126.0
2007年	29,471.5	16,689.1	1,108.1	11,674.3	121.5	119.9	112.6	124.8
2008年	35,289.5	19,487.9	1,203.2	14,598.4	119.7	116.8	108.6	125.0
2009年	40,288.2	21,862.7	1,273.3	17,152.1	114.2	112.2	105.8	117.5
2010年	47,269.9	24,886.4	1,433.7	20,949.7	117.3	113.8	112.6	122.1
2011年	59,954.7	28,954.8	1,737.4	29,262.4	126.8	116.3	121.2	139.7
2012年	70,914.2	32,950.0	1,990.4	35,973.8	118.3	113.8	114.6	122.9
2013年	93,064.3	33,359.6	2,195.8	57,508.9	131.2	101.2	110.3	159.9
2014年	102,817.2	36,106.6	2,302.7	64,408.0	110.5	108.2	104.9	112.0

資料： 中国統計年鑑 (2015)

Source: China Statistical Yearbook 2015

(7) 中国企業別従業員年間平均賃金及びその対前年指数

Average Wage of Employed Persons in Urban Units and Related Indices

年次 Year	年平均賃金 (元) Average Wage (yuan)				対 前 年 指 数 Indices (preceding year=100)							
					名 目 賃 金 Average Wage				実 質 賃 金 Average Real Wage			
	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective-owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective-owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective-owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership
1995年	5,348	5,553	3,934	7,728	118.9	117.3	121.1	119.9	101.8	100.4	103.7	102.6
1997年	6,444	6,679	4,516	9,092	107.8	107.6	104.7	106.7	104.5	104.4	101.6	103.5
1998年	7,446	7,579	5,314	9,241	115.5	113.5	117.7	101.6	116.2	114.2	118.4	102.3
1999年	8,319	8,443	5,758	10,142	111.7	111.4	108.4	109.8	113.2	112.9	109.8	111.2
2000年	9,333	9,441	6,241	11,238	112.2	111.8	108.4	110.8	111.3	110.9	107.5	109.9
2001年	10,834	11,045	6,851	12,437	116.1	117.0	109.8	110.7	115.3	116.2	109.0	109.9
2002年	12,373	12,701	7,636	13,486	114.2	115.0	111.5	108.4	115.4	116.2	112.6	109.5
2003年	13,969	14,358	8,627	14,843	112.9	113.0	113.0	110.1	111.9	112.0	112.0	109.1
2004年	15,920	16,445	9,723	16,519	114.0	114.5	112.7	111.3	110.3	110.9	109.1	107.7
2005年	18,200	18,978	11,176	18,362	114.3	115.4	114.9	111.2	112.5	113.6	113.1	109.4
2006年	20,856	21,706	12,866	21,004	114.6	114.4	115.1	114.4	112.9	112.7	113.4	112.7
2007年	24,721	26,100	15,444	24,271	118.5	120.2	120.0	115.6	113.4	115.0	114.8	110.6
2008年	28,898	30,287	18,103	28,552	116.9	116.0	117.2	117.6	110.7	109.8	111.0	111.4
2009年	32,244	34,130	20,607	31,350	111.6	112.7	113.8	109.8	112.6	113.7	114.8	110.8
2010年	36,539	38,359	24,010	35,801	113.3	112.4	116.5	114.2	109.8	108.9	112.9	110.7
2011年	41,799	43,483	28,791	41,323	114.4	113.4	119.9	115.4	108.6	107.7	113.9	109.6
2012年	46,769	48,357	33,784	46,360	111.9	111.2	117.3	112.2	109.0	108.3	114.3	109.2
2013年	51,483	52,657	38,905	51,453	110.1	108.9	115.2	111.0	107.3	106.1	112.2	108.2
2014年	56,360	57,296	42,742	56,485	109.5	108.8	109.9	109.8	107.2	106.6	107.6	107.5

中国統計年鑑2015 Source: China Statistical Yearbook

(8)中国産業別従業員年平均賃金の推移

Average Wage of Employed Persons in Urban Units by Sector

(単位:元)(yuan)

産業別 Sector	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
農、林、牧、漁業 Agriculture, Forestry, Fishery	8,207	9,269	10,847	12,560	14,356	16,717	19,469	22,687	25,820	28,365
採掘業 Mining	20,449	24,125	28,185	34,233	38,038	44,196	52,230	56,946	60,138	61,677
製造業 Manufacturing	15,934	18,225	21,144	24,404	26,810	30,916	36,665	41,650	46,431	51,369
電力、ガス、水道業 Production/Distribution of Electricity, Gas and Water	24,750	28,424	33,470	38,515	41,869	47,309	52,723	58,202	67,085	73,339
建築業 Construction	14,112	16,164	18,482	21,223	24,161	27,529	32,103	36,483	42,072	45,804
交通、運輸、倉庫、郵便業 Transport, Storage and Post	20,911	24,111	27,903	32,041	35,315	40,466	47,078	53,391	57,993	63,416
情報通信コンピューターサービス Information Transmission, Computer Service and Software	38,799	43,435	47,700	54,906	58,154	64,436	70,918	80,510	90,915	100,845
卸売、小売業 Wholesale and Retail Trades	15,256	17,796	21,074	25,818	29,139	33,635	40,654	46,340	50,308	55,838
ホテル、飲食業 Hotels and Catering Services	13,876	15,236	17,046	19,321	20,860	23,382	27,486	31,267	34,044	37,264
金融業 Financial Intermediation	29,229	35,495	44,011	53,897	60,398	70,146	81,109	89,743	99,653	108,273
不動産業 Real Estate	20,253	22,238	26,085	30,118	32,242	35,870	42,837	46,764	51,048	55,568
賃貸、リース業 Leasing and Business Services	21,233	24,510	27,807	32,915	35,494	39,566	46,976	53,162	62,538	67,131
科学研究、技術サービス業 Scientific Research, Technical Services	27,155	31,644	38,432	45,512	50,143	56,376	64,252	69,254	76,602	82,259
水利、環境管理業 Manage of Water Conservancy, Environment and Public Services	14,322	15,630	18,383	21,103	23,159	25,544	28,868	32,343	36,123	39,198
家庭サービス業 Services to Households and Other Services	15,747	18,030	20,370	22,858	25,172	28,206	33,169	35,135	38,429	41,882
教育 Education	18,259	20,918	25,908	29,831	34,543	38,968	43,194	47,734	51,950	56,580
衛生、社会保障、社会福祉業 Health, Social Securities and Entertainment	20,808	23,590	27,892	32,185	35,662	40,232	46,206	52,564	57,979	63,267
文化、スポーツ、娯楽業 Culture, Sports and Entertainment	22,670	25,847	30,430	34,158	37,755	41,428	47,878	53,558	59,336	64,375
公共機関、社会団体 Public Management and Social Organization	20,234	22,546	27,731	32,296	35,326	38,242	42,062	46,074	49,259	53,110
合 計 Total	18,200	20,856	24,721	28,898	32,244	36,539	41,799	46,769	51,483	56,360

(出所)中国統計年鑑2015

Source: China Statistical Yearbook 2015

上記を円(Yen)換算

産業別 Sector	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
製造業 Manufactur	212,560	273,375	317,160	366,060	375,340	401,908	476,645	541,450	835,758	976,011
合 計 Total	242,788	312,840	370,815	433,470	451,416	475,007	543,387	607,997	926,694	1,070,840
年別人民元yuan／円yenレート	13.34	15.00	15.00	15.00	14.00	13.00	13.00	13.00	18.00	19.00

(9) 中国省別従業員年平均賃金 (2014年)

Average Wage of Employed Persons Urban Units by Region

省 (区) 別 Region			年平均賃金(単位: 元)(yuan)	円換算(円) (yen)	対全国平均比(%) Indices(average=100)
北	京	Beijing	102,268	1,943,092	181.45
天	津	Tianjin	72,773	1,382,687	129.12
河	北	Hebei	45,114	857,166	80.05
山	西	Shanxi	48,969	930,411	86.89
内	蒙	Inner Mongolia	53,748	1,021,212	95.37
遼	寧	Liaoning	48,190	915,610	85.50
吉	林	Jilin	46,516	883,804	82.53
黒	龍	Heilongjiang	44,036	836,684	78.13
上	海	Shanghai	100,251	1,904,769	177.88
江	蘇	Jiangsu	60,867	1,156,473	108.00
浙	江	Zhejiang	61,572	1,169,868	109.25
安	徽	Anhui	50,894	966,986	90.30
福	建	Fujian	53,426	1,015,094	94.79
江	西	Jiangxi	46,218	878,142	0.03
山	東	Shandong	51,825	984,675	91.95
河	南	Henan	42,179	801,401	74.84
湖	北	Hubei	49,838	946,922	88.43
湖	南	Hunan	47,117	895,223	83.60
広	東	Guangdong	59,481	1,130,139	105.54
広	西	Guangxi	45,424	863,056	80.60
海	南	Hainan	49,882	947,758	88.51
重	慶	Chongqing	55,588	1,056,172	98.63
四	川	Sichuan	52,555	998,545	93.25
貴	州	Guizhou	52,772	1,002,668	93.63
雲	南	Yunnan	46,101	875,919	81.80
西	蔵	Tibet	61,235	1,163,465	108.65
陝	西	Shaanxi	50,535	960,165	89.66
甘	肅	Gansu	46,960	892,240	83.32
青	海	Qinghai	57,084	1,084,596	101.28
寧	夏	Ningxia	54,858	1,042,302	97.33
新	疆	Xinjiang	53,471	1,015,949	94.87
全	国	Average	56,360	1,070,840	100.00

(出所) 中国統計年鑑2015 Source: China Statistical Yearbook 2015

(注) 1 元=19円 Note: 1yuan=19yen

(10)ブラジルの繭・生糸生産数量の推移
Cocoon and Raw Silk Production in Brazil

シルク年度 Silk Year (9～8月) (Sep-Aug)	繭生産量 Cocoon Production (トン)(Ton)
1995/96	15,368 (95%)
1996/97	14,811 (96%)
1997/98	14,594 (99%)
1998/99	10,305 (71%)
1999/2000	8,473 (82%)
2000/01	9,916 (117%)
2001/02	10,238 (103%)
2002/03	9,966 (97%)
2003/04	8,005 (80%)
2004/05	7,146 (89%)
2005/06	8,051 (113%)
2006/07	8,617 (107%)
2007/08	6,266 (73%)
2008/09	4,835 (77%)
2009/10	4,439 (92%)
2010/11	3,037 (68%)
2011/12	2,620 (86%)
2012/13	2,608 (99%)
2013/2014	2,563 (98%)
2014/2015 〔見込み〕 〔Estimate〕	2,764 (108%)

暦年 Calendar Year	生糸生産量 Raw Silk Production (kg)	生糸生産量 Raw Silk Production (俵換算) (Bale value)
1995	2,467,524 (97%)	41,125
1996	2,242,000 (91%)	37,367
1997	2,120,129 (95%)	35,335
1998	1,820,745 (86%)	30,346
1999	1,553,722 (85%)	25,895
2000	1,389,356 (89%)	23,156
2001	1,484,905 (107%)	24,748
2002	1,607,485 (108%)	26,791
2003	1,562,563 (97%)	26,043
2004	1,512,133 (97%)	25,202
2005	1,284,510 (85%)	21,409
2006	1,387,289 (108%)	23,121
2007	1,219,562 (88%)	20,326
2008	1,176,885 (97%)	19,615
2009	811,020 (69%)	13,517
2010	769,903 (95%)	12,832
2011	557,633 (72%)	9,294
2012	439,504 (79%)	7,325
2013	440,301 (100%)	7,338
2014	432,500 (98%)	7,208
2015 〔見込み〕 〔Estimate〕	435,500 (101%)	7,258

資料: ブラタク製糸株式会社

注: ()内は対前年比

[]内の見込みは2015年4月現在

Source: Fiação de Seda Brtác S.A

Note: Figures in parenthesis are compared to the previous year.

Estimates are as of April 2015.

※「シルクレポート」の記事と統計データは、当支援センターのホームページでもご覧になれます。

<http://www.silk-teikei.jp>

シルクレポート 2016 年 3 月号 NO.47 平成 28 年 3 月 1 日発行

編集 / 発行

(問い合わせ先)

**一般財団法人大日本蚕糸会
蚕糸・絹業提携支援センター**

〒100-0006 東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 6 階

TEL : 03-3214-3500

FAX : 03-3214-3511

URL:<http://www.silk-teikei.jp>

製本 / 印刷

株式会社 正大印刷社

無断転載禁ず